

平成30年度東員町教育委員会
事務事業点検・評価報告書

令和元年 7月
東員町教育委員会

目 次

	ページ
I 平成30年度点検及び評価実施方針	1
II 教育委員会の運営状況	2
III 事業の点検評価	
・教育総務課に係る主要事業	6
・学校教育課に係る主要事業	8
・社会教育課に係る主要事業	16
IV 学校（幼稚園・保育園・小学校・中学校）の評価	19
V 評価委員会の意見	20

I 平成30年度点検及び評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、東員町教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

平成30年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

第5次東員町総合計画を踏まえた平成30年度東員町教育基本方針に基づき、平成30年度の教育委員会の運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

したがって、平成30年度の東員町教育委員会の全ての運営状況及び事務事業の執行状況について、自己点検評価を行ったものではない。

(2) 学識経験者の知見の活用

東員町の教育に関して、学識経験を有する次に掲げる学識経験者から教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴き、二次評価・外部評価結果として本書に記載する。

(学識経験者)

氏名	備考
小林 慶太郎	四日市大学教授
伊藤 頼子	元小学校校長
大貫 正博	文化協会会長

(3) 議会への報告及び公表

点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告し、ホームページへの掲載、窓口への備え付け等により公表する。

II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会

教育委員会では、5名の委員により毎月定例会議を開催し、教育基本方針をはじめ、条例・規則等の制定や教育予算など重要な案件を審議しました。また、教育委員会の重点施策について調査・研究するため、委員による教育行政視察研修を実施しました。

(1) 委員構成

平成31年3月31日 現在

氏名	住所	役職	備考
岡野 譲治	六把野新田	教育長	
向山 節雄	笹尾東2丁目	職務代理者	元学校長
三貫 納幸	城山1丁目	委員	元PTA役員
木村 陽一	大木	委員	会社員（保護者代表）
松宮 あけみ	笹尾東3丁目	委員	元養護教諭

(2) 教育委員会開催状況（定例教育委員会・臨時教育委員会）※詳細は資料編掲載

開催数	審 議 内 容							合計
	条例 制定	規則 制定	規程 制定	要綱 制定	予算 編成	報告、 その他	後援 許可	
13	1	2	2	3	3	32	36	79

(3) 委員研修状況

実施日	研修先	研修場所	研修目的	研修内容
8月29日	松阪市	嬉野生涯学習センター	県内教育関係者が様々な教育課題の中から共通のテーマのもとに研修を深めることで、県内各市町教育委員会間の連携を深めるとともに、三重県の教育の推進を図る。	講演 文部科学省初等中等教育局教育課程課 テーマ 「初等中等教育の施策の動向」 情報交換会 「教育委員会の活性化と委員としての役割」
11月1日	津市	三重県総合文化センター	いじめ防止に関する県民の理解を深め、社会総がかりでいじめの問題を克服していく。	講演 鳴門教育大学 特任教授 森田洋司 氏 テーマ 「いじめ防止フォーラム」
1月22日 ～1月23日	京都市	東山泉小中学校	施設分離型小中一貫教育の取り組みやキャリア教育について調査・研究する。	京都市立東山泉小中学校 施設分離型小中一貫教育
	大阪市	大阪企業家ミュージアム		大阪企業家ミュージアム キャリア教育について

(4) 学校訪問

実施日	実施場所	実施内容
5月30日	笹尾西小学校	学校長から平成30年度取組状況の説明 指導・助言を行うと共に、授業の見学や施設状況調査を行いました。
9月27日	笹尾東小学校	平成30年度取組状況の説明 指導・助言を行うと共に、中学校教諭による英語授業の見学を行いました。
11月26日	稲部小学校	指導・助言を行うと共に、小学校教諭による英語授業の見学を行いました。

2 平成30年度東員町教育基本方針

東員町第5次総合計画に基づき、「みんなが喜び、輝き、幸せを実感できるまち東員」を実現するために、「子育てを楽しめるまち、東員」「3感をはぐくむまち、東員」「住み続けたいくなるまち、東員」を目指して、幼児教育、学校教育、社会教育の充実に努め、時代的ニーズと社会の変化を的確にとらえた教育行政の諸事業を推進しました。

また生涯にわたる人間形成の基礎、つまり「生きる力」の土台となる基本的信頼感・自己肯定感・自己有能感を育み、子どもたちの「意欲」を高めることに主眼を置き、3つの提言として、“「表現する力」の育成”、“やりぬく力（GRIT）の育成”、“16年一貫教育プラン「子育ての手引き版」の活用と実践”を掲げ、取り組みを推進しました。

3 事務局体制

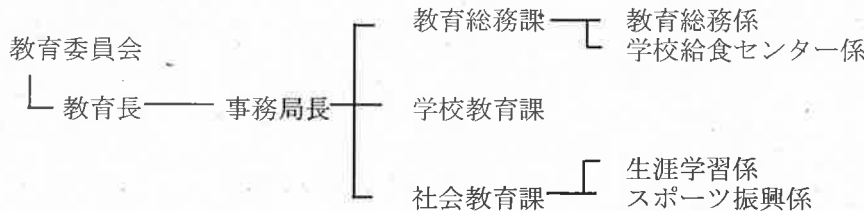
教育行政の推進を図るため、東員町教育基本方針に基づき、諸施策を実施しました。

教育総務課では、教育委員会の会議事務のほか、学校施設の整備・改修や日常の維持管理の他に、学校給食センターの管理・運営を行いました。

学校教育課では、学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的な指導を行うと共に、少人数指導や特別支援教育推進のために人的配置などの諸施策を実施しました。

社会教育課では、文化振興と生涯学習、スポーツの充実に努めるため、各種外郭団体と協働で諸施策を展開すると共に、体育施設の適正管理や図書館の充実に努めました。

(1) 事務局組織



(2) 職員数の状況

課名	局長	課長	課長補佐	係長	主任	主事	調理員	臨時職員	合計
教育総務課	1	2	1	1	-	1	-	-	6
学校教育課		2	2	1	-	2	-	2	9
社会教育課		2	1	2	-	2	-	5	12
合計	1	6	4	4	-	5	-	7	27

(3) 外部職員数の状況

幼稚園	園長	副園長	教諭		支援員	計	保育園	園長	副園長	保育士		支援員	調理員	計	幼保合計
			正規	臨時						正規	臨時				
三和	1	(1)	4	0	2	7	みなみ	(1)	1	0	6	1	1	9	16
稲部	1	(1)	3	0	4	8	いなべ	(1)	1	5	7	1	1	15	23
神田	1	1(1)	4	2	9	17	東員	(1)	1(1)	8	5	0	2	16	33
笹尾西	1	1	3	0	1	6	笹尾第一	(1)	(1)	4	4	1	1	10	16
笹尾東	1	1	4	0	3	9	笹尾第二	(1)	(1)	4	6	0	1	11	20
城山	1	1	3	0	3	8	しろやま	(1)	(1)	6	3	3	1	13	21
合計	6	4(3)	21	2	22	55	合計	(6)	3(4)	27	31	6	7	74	129

※ 幼保一体化のため園長・副園長の（ ）は幼稚園・保育園をそれぞれ兼務する。
職員数は幼保合せて配置調整し、園児数によって増減します。

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
三和	1	1	9.5	2	1	1	1	1	17.5	3	2	1	6	23.5
稲部	1	1	12	1	1	0	0	1	17	1	3	1	5	22
神田	1	1	23.5	7	1	0	0	1	34.5	1	8	1	10	44.5
笹尾西	1	1	10	2	1	0	0	1	16	2	4	1	7	23
笹尾東	1	1	11	1	1	0	0	1	16	2	3	1	6	22
城山	1	1	10	2	1	0	0	1	16	3	2	1	6	22
合計	6	6	76	15	6	1	1	6	117	12	22	6	40	157

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援員等	用務員	計	
東員第一	1	1	21	5	1	0	0	1	30	5	3	1	9	39
東員第二	1	1	18	4	1	1	0	1	27	4	3	1	8	35
合計	2	2	39	9	2	1	0	2	57	9	6	2	17	74

※ 県費教職員

- ①再任用短時間も0.5人として教諭に含む。
- ②講師は非常勤（初任研後補充、女子体補充は除く。）を含む。ただし、代替（病休・休職・産育休等）の臨時的任用は除く。
- ③養護、学栄、事務は臨時的任用を含む。ただし、代替（産育休等）の臨時的任用は除く。

※ 町費教職員

- ①用務員には委託職員（シルバー人材センター）を含む。
- ②非常勤講師のうち9名は県費非常勤と兼務。

(4) 教育予算の推移（歳出）

（単位：千円）

区分	H27（決算）	H28（決算）	H29（決算）	H30（決算）
学校教育	1,399,437	1,425,387	1,400,827	1,443,686
社会教育	335,444	327,858	275,504	209,926
合計	1,734,881	1,753,245	1,676,331	1,653,612
町一般会計	7,954,765	7,658,451	7,780,022	7,639,101
教育費割合（%）	21.8	22.9	21.5	21.6

(5) 指導主事による要請訪問の状況

指導主事2名が、園や学校の研修会や国語の読解力・書く力向上のための研修会等に出向き、活用力を高めるための授業改善に取り組むとともに、子どもの権利条例に関する学習会講師、いじめ対応、16年一貫教育プラン学習会講師など学校教育に関する専門的な指導や助言を行い、教員の指導力の向上や研修の充実を図りました。また、初任者教員への指導・助言を行いました。

指導主所要請訪問回数は学習会も含めて下記の通りです。

区分	幼稚園・保育園	小学校	中学校	合計
要請訪問回数	12	22	8	42

※ 表内の数字は、指導主事2名で訪問した回数を表しています。

教育予算の推移（歳出）の明細

区	分	H27	H28	H29	H30
学校教育	ファミサポ経費	2,257,201	2,337,582	2,298,732	0
	保育園費	383,916,144	410,605,062	397,365,134	405,876,211
	教育総務費	178,437,454	176,238,261	151,974,154	227,295,636
	小学校費	186,227,235	174,018,279	192,554,169	187,739,158
	中学校費	106,783,458	102,899,599	96,586,760	94,847,372
	幼稚園費	258,033,659	259,258,645	269,551,079	268,683,734
	学校給食費	283,782,370	300,029,825	291,496,559	259,243,133
	計	1,399,437,521	1,425,387,253	1,401,826,587	1,443,685,244
社会教育	社会教育費	214,175,196	206,533,097	165,178,361	119,479,672
	保健体育総務費	19,997,339	20,850,600	21,068,567	1,039,919
	保健体育振興費	101,271,109	100,474,779	89,256,568	89,405,974
	計	335,443,644	327,858,476	275,503,496	209,925,565

※平成30年度より、ファミサポ経費は、子ども家庭課へ所管が変わりました。

※平成30年度より、社会教育費、保健体育総務費の人件費は教育総務費に計上されております。

Ⅲ 事業の点検評価

平成30年度教育委員会の主要事業について、教育委員会自らの点検評価は次のとおりです。
なお本町の特徴として、幼保一体教育を実施しており、評価も教育・保育にまたがっております。

教育総務課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
教職員健康管理事務	1,748 千円 0.04 人	<p>学校教諭及び用務員の定期健康診断を実施し、健康の保持・増進を図るとともに、産業医と契約し、過重労働対象者に対する面接指導を行いました。個々の勤務状況等を聞き取り、働き方・生活習慣の改善を提案し、心身のケアを図り、円滑な学校教育の推進に努めました。今年度は、延べ10名の教員に面接指導を実施しましたが、過重労働対象者の解消には至っておりません。今後とも取り組みを強化してまいります。</p> <p>また、教育長を筆頭に、校長代表、養護教諭代表並びに教職員代表、町職員等計8名の委員で構成された総括安全衛生委員会で協議を行い、職員室の空調設備改修やタイムカードの試行的導入など教職員の健康の確保と快適な職場環境の整備に努めました。</p>
いなべ保育園空調設備 改修工事	5,130 千円 0.01 人	<p>保育園では、消防施設及び電気設備、遊具などの保守点検、修繕を行い、園児の安心・安全な園生活の向上を図りました。</p> <p>また、保守点検による空調機器などの施設修繕と共に、管理備品の修繕などを行いました。台風被害が多く発生しましたが、早急に対応しました。</p>
みなみ保育園屋根修繕	297 千円 0.01 人	
三和小学校他 校舎窓周り改修工事	7,118 千円 0.04 人	<p>経年劣化で老朽化した施設の改修工事を実施しました。</p> <p>学校生活における児童生徒の安全確保と快適な学習環境づくりとして、施設の適切な維持管理を行いました。</p> <p>小学校（三和・稲部・笹尾東・城山）体育館トイレを和式から洋式便器に改修し避難所としての機能の充実を図りました。</p> <p>小学校（三和・稲部・神田）窓周りの改修を行い安全性の確保と雨漏り対策に努めました。</p> <p>両中学校において、ガラスが割られるなどの被害が多発したため、防犯カメラを設置し対応しました。設置後の被害はございません。</p>
三和小・稲部小学校 体育館トイレ改修工事	12,064 千円 0.04 人	
笹尾東小・城山小学校 体育館トイレ改修工事	13,112 千円 0.04 人	
東員第一中学校校舎外壁等 改修工事	6,124 千円 0.04 人	
東員第一中学校 防犯カメラ設置工事	1,413 千円 0.04 人	
東員第二中学校 防犯カメラ設置工事	1,296 千円 0.04 人	
東員第一中学校 フェンス修繕	1,296 千円 0.01 人	
神田幼稚園 保育室空調機修繕	120 千円 0.01 人	<p>幼稚園では保育園と同様に、消防施設及び電気設備、遊具などの保守点検、修繕を行い、老朽化した遊具や施設を修繕しました。</p> <p>また、猛暑により空調機の故障が相次ぎましたが、園児の安全確保のため早急に対応しました。</p>
城山幼稚園 職員室空調機修繕	367 千円 0.01 人	
幼稚園・保育園 消防設備修繕	543 千円 0.01 人	

<p>学校給食センター運営事業</p>	<p>259,244 千円 2.0 人</p>	<p>小中学校の児童・生徒や保育園・幼稚園の3歳以上を対象（教職員を含め約3,100食分/日）に、健康で豊かな学校・園生活が送れるよう、栄養教諭の指導により、安全・安心で栄養バランスのとれた豊かでおいしい給食を提供しました。</p> <p>学校給食の食材費は、保護者負担となっており、給食費として納入いただいております。給食費負担の公平性を確保するため、未納対策においては「未納対策マニュアル」に基づき、口座振替不能者に対しては振替不能通知を送付し、3ヶ月以上の未納者に対しては催告書を送付しました。また、保護者へ電話による納付勧奨や戸別訪問により徴収を行うなど、適切な措置に努めました。</p> <p>平成25年4月から調理業務及び配送・回収業務の民間委託を開始し、調理業務では人員の効果的・効率的配置による正確な調理に加え食材の品質管理や衛生管理が向上し、配送業務においても衛生管理や車両の点検など危機管理が徹底され、安定かつ確実に給食を各学校等に届けることができました。</p> <p>平成30年度は、調理委託業務の更新年度であったため、プロポーザル方式による選定を行った結果、前回と同じ事業者と随意契約を締結いたしました。配送・回収業務につきましては、一般競争入札による複数年契約により、引続き同じ事業者により業務を継続しました。</p> <p>食育、給食指導につきましては、栄養教諭が各担当の受配校の児童・生徒に対して、指導を行いました。児童達が食への興味や関心を持ち、食事の重要性・喜び・楽しさ等を身につけられるように各小中学校と共に計画的な食育等を進めました。</p> <p>さらに、平成30年度につきましては、文部科学省より「つながる食育推進事業を東員第二中学校区（小学校3校、中学校1校）において受託し、学校・家庭・地域が連携した食育の推進及び充実を図りました。</p> <p>給食センターでは、児童が自分たちの食べている給食がどのように作られているかを学ぶため、希望する学校に対して施設見学会を2回実施いたしました。</p> <p>さらに、教育の一環として、勤労体験学習を行っている小中学校に対しては、児童・生徒の受け入れを行いました。児童・生徒には、実際に調理室に入って仕事を体験していただき、給食ができるまでの工程について学んでいただきました。</p> <p>施設・設備等の維持管理については、老朽化に伴う修繕等を行い、和え釜の取替えと食缶洗浄機のポンプの取替え等を実施すると共に、給食配送用コンテナ3台の買換えを行いました。</p> <p>また、施設等維持管理の、効率化と長寿命化を図るため長寿命化計画を策定しました。今後は長寿命化計画に基づき随時更新していく予定です。令和元年度は、炊飯設備一式の取換えを計画しています。</p>
---------------------	-----------------------------	--

学校給食費収納状況

年 度	調定額	収入済額	収入未済額	未納件数	収納率
平成30年度	127,825,037	126,832,137	992,900	86名	99.22%
平成29年度	130,002,344	129,154,874	847,470	69名	99.35%

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
保育園運営事業	384,456千円 正職 30人 臨時 32人	<p>保育園では、就労や疾病などにより家庭で十分な保育を行なえない保護者の代わりに、園児の保育をしています。</p> <p>平成30年度の保育園は計508名（0～5歳児、3月31日時点）の園児を受け入れ、3歳以上児では幼稚園児との合同保育を実施しました。</p> <p>各園で、各年齢の発達段階に応じた保育・教育を行い、子どもの健康、健全な成長が保障されるよう努めました。特に乳児期には、保護者や保育者との間に生まれる基本的信頼感をしっかりと育むこと、幼児前期では、しつけの中で自律性を育むこと、幼児後期では、遊びを通じて自主性を育むことを第一の目標に掲げながら運営してきました。これは、16年一貫教育プランの保育教育理念に則ったものであり、子どもたちの生きる意欲を高める保育となっています。</p> <p>また、特別な支援を必要とする園児については、保育支援員（計6名）を配置し、個に応じた支援を行いました。ここ数年、支援を必要とする園児が増加傾向にあります。予算の関係上、限られた支援員の数で子どもをみていくための知恵と工夫が必要と考えます。</p> <p>土曜日保育は、東員保育園を拠点園として通常の時間帯で実施しました。職員配置の面で課題はありますが、3月末時点の登録者は81名で、実際に登園する園児数は日によって異なりますが、1日平均でおよそ31名となりました。</p>
ALT派遣事業	14,097千円 0.11人	<p>中学校に2名（一中、二中に各1名）、小学校に1名（小学校6校を巡回）、計3名のALTを配置し、中学校の英語教育及び小学校の外国語活動（3・4年）英語を中心とした外国語（5・6年）の充実に努めました。</p> <p>小学校英語推進教員2名（中学校英語科免許所有の小学校教諭・中学校英語科教諭）とティームティーチング（以下T.T.）で授業を行い、子どもたちが英語に慣れ親しみ、対話力を向上させることで、大きな効果がありました。</p> <p>また、学期毎に中学校からALTを各園（幼稚園・保育園）に派遣し、5歳児を中心に英語に親しむ遊びや活動を行いました。</p> <p>中学校の英語科では、教諭とT.T.で授業を行い、ネイティブスピーカーとしてだけでなく、生徒のリスニング、スピーキング練習、会話の練習、英文の添削指導や暗唱指導、英検受検者の模擬試験（会話・応対）等を行い、生徒のコミュニケーション能力の基礎の育成に取り組みしました。</p> <p>小学校では、新学習指導要領本格実施（R2年）に向けて、今年から3・4年生は週1時間、5・6年生は週2時間の授業を行っています。各担任とALTがT.T.を行い、生の英語の音声や基本的な表現練習を歌やゲームに取り入れて、楽しみながらコミュニケーション能力の素地を養いました。</p> <p>また、研究員・英語推進教員が中心となり、R2年度より実施予定の「東員英語検定」使用テキストや補助教材の作成を行い、各小学校で試作版を使用し、テキストの修正を繰り返し行いました。補助教材の音声CD作成時、ALTは英文を読み上げ、会話文を録音することにも積極的に参加しました。</p> <p>英語での対話に慣れ、楽しみながら意欲的に学習したり、日常の中で生きた英語に触れる機会を充実させ、異文化を理解し、協調する姿勢を育成したりするとともに</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価															
特別支援教育推進事業 (巡回相談員派遣事業)	1,680千円 0.02人	<p>、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していきます。</p> <p>専門的な資格(臨床心理士・特別支援教育士)を持った巡回相談員2名を派遣しました。臨床心理士は、幼稚園・保育園・小学校・中学校へ出向いての巡回指導、特別支援教育士は、教職員や保護者等を対象とした教育相談を実施しました。</p> <p>巡回相談においては、各園校の気になる子どもの保育や授業での姿を観察した上で、その子どもに応じた支援のあり方について、担任に助言・指導を行っていただきました。教育相談では、知能検査(WISC-IV)の実施、相談員から保護者や教職員に向け、具体的に支援の方法について助言を行っていただきました。</p> <p>(巡回相談の状況) (人数)</p> <table border="1" data-bbox="778 801 1445 904"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>幼・保</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回相談</td> <td>24</td> <td>43</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>教育相談</td> <td>0</td> <td>56</td> <td>28</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>巡回相談や教育相談での助言を基に、各園校において個別の指導計画を作成し、児童生徒の状況に応じた取り組みを行っています。</p> <p>また、特別支援教育コーディネーターのスキルアップを図るため、年間3回の研修会を行いました。2回は、中学校の事例について考える「事例さかのぼり研修」の研修会を実施しました。講師に町の相談員を招き、事例について児童生徒の困り感とその要因を探り、個の発達課題に応じた支援方法について考え合いました。残り1回は、三重県教育委員会特別支援教育課の指導主事を招へいし、「新学習指導要領の概要のポイント～具体的な事例を交えて～」について講義を受け、特別支援学校の指導要領で大切にされていることを学びました。具体的な事例も交えて学んだことで、特別支援教育の観点と共に各園校での実践につなげることができ、児童生徒の困り感を軽減することができました。</p>	内 容	幼・保	小学校	中学校	その他	巡回相談	24	43	9	1	教育相談	0	56	28	—
内 容	幼・保	小学校	中学校	その他													
巡回相談	24	43	9	1													
教育相談	0	56	28	—													
特別支援教育推進事業 (学習支援員活用事業)	29,489千円 0.02人	<p>学習支援員を小中学校に合計28名配置し、特別支援学級に在籍する児童生徒を中心に、他の支援が必要な児童生徒に対しても、クラス担任や特別支援教育コーディネーター等と連携しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行えるよう努めました。</p> <p>支援が必要な児童生徒が増えていることから、コーディネーターによる日々の支援員の適切な配置と、個に応じた効果的な支援ができるよう取り組みました。引き続き、より充実した特別支援教育が実施できるよう、個別作成のサポートファイルをもとに、保護者、担任、支援員の連携を充実させていきます。また、より専門的な知識をもとに支援できるよう支援員の充実した研修についても企画していきたいと考えています。</p>															
学力向上推進事業 (学力調査活用事業)	2,550千円 0.05人	<p>児童・生徒の学力の定着状況を把握するために、総合学力調査(IRT)を実施しました。対象学年及び教科は以下のとおりです。</p> <p>【4月】 小4, 5 : 理</p> <p>【11月】 小1, 2, 3 : 国・算</p>															

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		小6：社 中1：国・数・社・理 中2：国・数・英・理 中3：国・数・英・社・理 小4：国・算・理 小5，6：国・算・社・理 【2月】 中2：社
		<p>調査結果を各校で分析し、授業改善に生かしたり、個人票をもとに個別の補習対応を行ったりしました。 調査結果は以下のとおりです。数値は平均点で（ ）内の値は全国平均を100とした場合の達成率となります。</p> <p>【小1】 11月 全国 / 東員町 (達成率) 国語 : 69.8 / 75.3 (107.9%) 算数 : 72.5 / 78.6 (108.4%)</p> <p>【小2】 11月 国語 : 72.7 / 74.2 (102.1%) 算数 : 77.1 / 80.2 (104.0%)</p> <p>【小3】 11月 国語 : 43.3 / 46.4 (107.2%) 算数 : 60.5 / 66.7 (110.2%)</p> <p>【小4】 11月 国語 : 58.1 / 62.0 (106.7%) 算数 : 63.6 / 73.8 (116.0%) 理科 : 63.6 / 69.1 (108.6%)</p> <p>【小5】 11月 国語 : 53.3 / 61.3 (115.0%) 算数 : 51.1 / 59.4 (116.2%) 社会 : 56.4 / 66.2 (117.4%) 理科 : 63.2 / 70.6 (111.7%)</p> <p>【小6】 4月 社会 : 71.4 / 72.6 (101.7%) 11月 国語 : 64.5 / 68.1 (105.6%) 算数 : 63.0 / 70.1 (111.3%) 社会 : 64.9 / 72.5 (111.7%) 理科 : 64.4 / 67.8 (105.3%)</p> <p>【中1】 4月 国語 : 55.3 / 60.2 (108.9%) 算数 : 57.1 / 60.9 (106.7%) 社会 : 57.3 / 56.9 (99.3%) 理科 : 62.6 / 60.2 (96.2%)</p> <p>【中2】 4月 全国 / 東員町 (達成率) 国語 : 62.1 / 64.6 (104.0%) 数学 : 59.9 / 67.5 (112.7%) 英語 : 63.0 / 65.7 (104.3%) 理科 : 55.0 / 53.7 (97.6%)</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価																																	
		<p>11月 社会 : 67.6 / 67.3 (99.6%)</p> <p>【中3】 4月 国語 : 63.2 / 63.2 (100.0%) 数学 : 55.6 / 56.1 (100.9%) 英語 : 55.7 / 55.6 (99.8%) 社会 : 58.0 / 57.8 (99.7%) 理科 : 63.7 / 61.0 (95.8%)</p> <p>ここ数年、小学校は、毎年安定した結果となっています。特徴的なところでは、学年が上がるとともに、全国平均を大きく上回る結果となっています。これは毎回、調査結果を各校がしっかりと分析・把握し、調査結果の4階層についてD層（低学力層）児童10%未満を目標に、授業改善や個別の指導・支援の充実に努めている成果と考えます。</p> <p>課題としては、中学校の理科、社会の結果で、全国平均を下回っています。小学校でつけた力が、中学入学後の伸びに鈍化傾向がみられるため、子どもたちがわかると実感できる中学校の授業改善に積極的な指導助言を行っています。</p>																																	
<p>学力向上推進事業 (少人数教育推進事業)</p>	<p>17,201千円 0.02人</p>	<p>小中学校に少人数指導、教科指導等を行うための非常勤講師を配置しました。小学校では県費非常勤講師と組み合わせ、算数を中心に習熟度別指導、チームティーチング等を行いました。中学校では定数配置が不可能な教科を中心に任用し、持ち時間の調整を行い県費の非常勤講師と組み合わせ、数学、英語を中心にチームティーチング等を行いました。</p> <p style="text-align: right;">〈少人数加配の状況〉 4.1現在</p> <table border="1" data-bbox="778 1227 1444 1326"> <thead> <tr> <th>校種</th> <th>定数</th> <th>県非常勤</th> <th>町非常勤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>4名</td> <td>5名</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1名</td> <td>4名</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※初任研関係非常勤講師は除く ※人数は辞令上の延べ人数</p> <p>小学校では、過密単学級が多いという状況の中、きめ細やかな指導を行うことができるように講師の配置を行う条件整備が極めて重要です。国での学級編制基準の見直しや教員の増員が見込めず、県の財政事情から加配も厳しい状況の中で、この事業はますます重要です。</p> <p>また、中学校において、美術、音楽、家庭科等の定数配置が不可能な教科や国際化対応講師が必要であることから、この事業が必要不可欠になります。</p> <p>これまでそれぞれの学校でD層10%未満を目標にしながら効果的な少人数教育を実践・研究してきた結果が少しずつ現れてきています。</p> <p style="text-align: center;">D層10%未満達成学校数</p> <table border="1" data-bbox="853 1774 1369 1930"> <thead> <tr> <th>H30.11</th> <th>1年</th> <th>2年</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>4校</td> <td>0校</td> <td>2校</td> <td>0校</td> <td>2校</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>算数</td> <td>1校</td> <td>1校</td> <td>1校</td> <td>4校</td> <td>3校</td> <td>4校</td> </tr> </tbody> </table>	校種	定数	県非常勤	町非常勤	小学校	4名	5名	9名	中学校	1名	4名	7名	H30.11	1年	2年	3年	4年	5年	6年	国語	4校	0校	2校	0校	2校	1校	算数	1校	1校	1校	4校	3校	4校
校種	定数	県非常勤	町非常勤																																
小学校	4名	5名	9名																																
中学校	1名	4名	7名																																
H30.11	1年	2年	3年	4年	5年	6年																													
国語	4校	0校	2校	0校	2校	1校																													
算数	1校	1校	1校	4校	3校	4校																													
<p>学校図書館支援事業</p>	<p>3,221千円 0.02人</p>	<p>①専門員の勤務について ・1日5時間45分勤務 ・神田小学校→72日勤務（週2日） ・その他の小学校→36日勤務（週1日）</p>																																	

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>②主な業務内容 子どもたちが行きたくなるような図書室の環境整備や授業支援として、読み聞かせ、課題図書の紹介、読書感想文の書き方指導等を行うことで、効果的な児童への学習・読書支援を行いました。</p> <p>また、図書委員会活動の支援、読書登山ブックリスト（0歳→小2）第3版の作成にも携わり、児童の主体的な読書活動の推進に務めました。</p> <p>③貸出冊数の推移 2015年度→24,534冊（前年度比＋1.3%） 2016年度→26,687冊（前年度比＋8.7%） 2017年度→31,634冊（前年度比＋18.5%） 2018年度→25,480冊（前年度比－14.2%） ※2018年度より中学校廃止、冊数は小学校貸出冊数（前年比較参考：2017年度小学校貸出冊数→29,676冊）。また勤務日数は、2017年度全小学校週2日から、神田小以外の学校で週1日に変更。</p>
16年一貫教育プラン 実践事業	430千円 0.03人	<p>本プランは6年目に入っています。本プランの実現に向けては、5段階の取組を進めようと考えております。</p> <p>第1段階：方針を策定し予算を獲得する 第2段階：教職員への研修、理論に基づく実践の展開 第3段階：家庭への啓発と発信、家庭での実践の展開 第4段階：子どもの意欲的な姿、家庭での習慣化の実現 第5段階：子どもの顕著な変化（意欲、社会性、共感力の獲得）が起こり、成果と課題が明確化され、それが全国へ発信できるまでのレベルになる</p> <p>現在は、第3段階に入っており、子育て支援に重点を置いて、保護者への本プランの理念や、子育てのポイントやコツについて伝えているところです。具体的には、「16年一貫教育プラン 子育ての手引き版」をもとに、保護者対象の子育て学習会を開催したり、マタニティ教室へ出向き、胎児期や乳幼児期の子育ての大切さを伝えたりすることで、子育ての不安や負担を軽減しています。今後は、思春期の子育てのポイントをまとめた子育ての手引き版の続編を作成していきたいと考えています。</p> <p>統一した取組としては、全園で「野球教室」「親子クッキング」等を実施しました。小学校では、令和2年から始まる英語の学習に向けて「東員町英語テキスト（仮）」を作成し、4技能の育成に向けた英語授業の研究を始めました。</p> <p>「読書登山」においては、選書を見直した結果、新たな本を読もうと積極的に図書室へ通う子どもたちの姿が見られました。</p>
特色ある学校づくり事業	1,800千円 0.02人 ※ 小学校 200千円 中学校 300千円	<p>地域や子どもたちの状況に応じた学校独自の教育を支援するため、特色ある学校づくり事業を推進しました。各校が専門講師や地域の方を招へいしたり、長年続いている伝統的な行事を推進しました。</p> <p>《各校ごとの主な特色ある取り組み》</p> <p>【三和小】 『伝統を大切に教育推進事業』では、今年で53年目となる伝統の鼓笛演奏を行ないました。6年生が5年生に教え、引き継ぐという取り組みを経て、誰もが演奏者となり、伝統を担っていくことは児童にとっての誇りとなっております。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>2月の鼓笛の引継式では、たくさんの保護者が参観され、6年生最後の演奏のあと、6年生に運動会後から教えてもらってきた5年生が曲を初披露し、それをみつめる6年生のまっすぐな瞳が印象的な会となりました。伝統を通して、子どもたちの自己肯定感や自己有能感を育てることができたと思います。</p> <p>【稲部小】 『心を育む事業』では、各学年において子ども達が実際に体験することで人の工夫や知恵を学びました。低学年では、自分たちで選んだ野菜づくりに挑戦し、採れた野菜を食べることで食育にも結び付けました。中学年においては、大豆やトウモロコシを栽培し、それを使って、豆腐やポップコーンを作ることによって食べ物が形を変えることを学びました。高学年では、サツマイモの栽培に取り組み、耕作やツル挿しなどをボランティアの方に指導いただきました。各学年とも、自分たちで作ったものを収穫し食べることで達成感を感じることができ、自己肯定感や自己有能感が育まれたと考えます。</p> <p>【神田小】 『学力向上推進事業』では、三重大学教育学部准教授の加納岳拓先生を3回招き、研修会・学習会を行ないました。また、主体的・対話的で深い学びのある授業を行なうために教材研究を行い、ジャンプ課題(発展的な課題)、共有課題(基礎・基本)の作成に取り組みました。そして、特別支援教育の視点を学級経営に活かすための学習会も行い、「めざす子どもの姿」の共通イメージを持つために、授業の写真を撮り、イメージの共有化も行いました。これらの取り組みを行なうことで、学力向上・教師の授業力向上が図れ、児童のめざす授業の具現化に向けて、児童と教師ともに授業作りに取り組むことができました。</p> <p>【笹尾西小】 『学力向上推進事業』では、指導力を高める研修を推進し、確かな学力を身につけさせる授業改善に取り組みました。「子ども達に分かる喜びを感じ、自らさらに学ぼうとする力をつけていく。」を達成するため「学びの共同体」を軸にして授業研究に取り組みました。三重大学から加納准教授を招き、子ども同士のつながりの中で、共に学び合う授業の創造を目標に、教科の本質や単元の特性を生かした課題を設定し、教師の役割を意識した授業作りを実践しました。一人あたりの授業公開研究の機会を増やし、事後検討会を繰り返し行いながら、授業での子どもの具体的な姿をもとに、学びの成立を促すための課題の在り方、教師の役割について研修することができました。</p> <p>【笹尾東小】 『全員で考え、全員で学び、学ぶ意欲を高める授業づくり事業』では、子ども達が自分たちで話し合い、進んで考える、学び合いのある授業を目指して、価値理解、人間理解、他社理解、自己理解、それぞれ本当の意味を考えることができました。日頃からの授業作りの中で、もっとも大切なことは、子ども達が自分の考えを安心して話せる学級集団を創ることであり、他教科も含めて「話し合い活動」「聞き合い活動」を充実させていくことが重要です。授業作りをそれぞれの担任が上で述べた内容を意識して取り組み、子ども達が主体的に学ぶ授業作りの実現に向けて、職員一同力を合わせていきたい。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>【城山小】 『みんなで育てる教育推進事業』では、地域の方とふれあうことを狙いとして餅つき体験を行なっていたが、児童との会話があまりできずに触れ合う場面が少なかったため、今年度から9つのふれあいコーナーを設けて地域の方とのふれあいに取り組んだ。「おはじき」や「紙飛行機」「将棋崩し」などを教えてもらったり、楽しみながら会話ができた大変好評であった。また、『心を大切にする教育推進事業』では、1年生から6年生が協働でサツマイモを育て、調理実習まで取り組むことができました。</p> <p>【東員一中】 『心和む学校環境づくり・ボランティア活動推進事業』では、生徒一人一人が明るく心やすらぐ学校生活を送ることができるよう自発的な活動を推進しました。生徒会福祉委員会の清掃活動を充実させる取り組みや3年生の卒業に向けての奉仕作業などにより、環境整備・美化の意識を向上させることができました。4人の地域ボランティアさんに定期的な活動をしていただき、庭木の剪定・草刈り・さな板の修繕など、環境美化・整備を進めることができました。また、吹奏楽部によるボランティア演奏会を東員町音楽祭、いずみ文化祭、コスモス祭り、ジョイントコンサート、幼稚園保育園コンサートなどで行った。演奏会の依頼も年々増えており、取り組みの成果を感じることができました。</p> <p>【東員二中】 『みんなで育てる教育推進事業』では、1年生は環境・福祉学習をINAXライブミュージアム・東邦ガスエネルギー館において、集団生活のルールを学び、仲間を大切にしてお互いに認め合える集団の育成と自ら判断して主体的に行動できる能力の育成を行ないました。 2年生は、愛知県南知多グリーンバレイで学級の仲間との相互理解や交流を図り、学級集団・学年集団の育成を図った。3年生は、修学旅行での平和学習を中心に取り組み、また生き方教育として親から子への手紙の取り組みを実施することができました。</p>
東員町いじめ問題対策事業	137千円 0.02人	<p>東員町いじめ問題対策連絡協議会と、東員町いじめ問題調査委員会を行いました。 東員町いじめ問題対策連絡協議会は、2回開催しました。なお、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県・法務局桑名支局長 ・いなべ医師会代表 ・三重県いなべ警察署生活安全課長 ・東員町校長会小学校会長 ・東員町校長会中学校会長 ・東員町社会福祉協議会長 ・東員町青少年育成町民会議会長 ・東員町主任児童委員会代表 ・東員町人権擁護委員長 <p>第1回調査委員会では、平成29年度の国の問題行動等調査の結果と、開催時点でのいじめの発生状況等について報告しました。また、笹尾西小学校のいじめ防止に関する取り組みについても詳しく校長より報告がありました。</p> <p>第2回では、開催時点での「いじめ」の発生状況等、長期化している事案について詳細を報告し、意見を交流しました。</p>

学校教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
		<p>また、城山小学校のいじめ防止に関する取り組みについて報告しました。</p> <p>東員町いじめ問題調査委員会は、1回開催しました。なお、今年度は委員の委嘱を行い、委員の構成は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皇學館大学名誉教授 ・三重くわな法律事務所 弁護士 ・北勢病院精神科医 ・臨床心理士、学校教育巡回相談員 ・元小学校長、教職員指導力向上対策指導員 ・元幼稚園長、人権擁護委員 <p>調査委員会では、平成29年度の東員町のいじめ問題について状況報告を行うと共に、長期化している事案について、学校教職員へ助言をいただき、全ての事案の解消につながる事ができました。</p>
幼稚園運営事業	<p>253,561千円 正職 30人 臨時 2人</p>	<p>幼稚園は、学校教育法に基づく「学校」として、小学校以降の学習生活の基盤を培う重要な役割を担っています。特に、3歳以降の幼児期後期においては、自分で考え行動することを覚える時期であり、遊びを通じて自主性を育てていかなければなりません。自ら選んだ遊びを通じて子どものやろうとする気持ちを大切にし、未知なるものへの自発的な探求心を育み、目的を持って積極的に取り組む力をつけるための教育・保育に取り組ましました。</p> <p>また、特別な支援が必要な園児には、保育支援員22名を配置し、個に応じた支援を行いました。その他にも小学校へのスムーズな接続をするため、集団を意識した全体活動を大切にしています。幼保一体化施設と各園が小学校と隣接しているという利点を生かしながら、幼保小の連携も充実させることができました。</p>
総勤務時間の縮減に係る取組		<p>【幼稚園・保育園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務量の削減（個人ノートの簡素化等） ・環境整備、教材準備時間の削減（円の美化清掃や、お手玉等の玩具づくりを保護者にも協力していただく） ・定時退園日の設定（1週間に1日はノー残業デーを実施） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比3日以上取得増を目指す ※現在、平均約8.6日/年→目標15日/年） <p>【小学校・中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議時間の短縮（議題の精選、資料の配付方法等を見直し60分以内で終了を目指す） ・定時退校日の設定（毎週金曜日小学校18時、中学校19時） ・休暇取得日数増加の取組（年休前年度比2日以上取得増を目指す。※現在、平均約10.2日/年→目標15日/年） ・時間外労働時間の縮減（目標：4H以上/月減） ・学校閉庁日の設定（小6日、中4日 H30は2日増） ・郡市中学校部活動検討会議の開催（実施日、実施時間、大会参加等についてガイドラインを作成した） ・タイムカードの導入試行（東員第二中学校）

社会教育課に係る主要事業

事業名	決算額 職員数	点検・評価
人権・青少年育成事業 (社会教育諸経費)	3,873千円 0.15人	子ども達が日常考える人権への想いを発表することや、大人達ができる行動(啓発等)を通じて、人権に関する取り組みを浸透させ、誰もがその人らしく暮らせる社会の構築を目指します。 ・人権講座・講演会(講話と人形劇上演) 5月26日(土) 入場者数 82人 ・人権教育青少年育成推進事業(人権標語コンクール他) 12月1日(土) 入場者数 415人
<p><青少年の育成>(青少年育成町民会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育活動 <ul style="list-style-type: none"> ①第32回子育ての集い 11月18日(日) 子ども家庭課と共同で開催 講演会及び分散会 (56人参加) ②第37回町民歩け歩こう大会 10月8日(月・祝) 北勢線を活用して桑名市九華公園他へ(163人参加) ・青少年の自主・自立及び非行防止と環境浄化活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①第25回青少年の主張 12月1日(土) 小学生4人・中学生1人・高校生1人が発表。 当日は中学生の実行委員10人が司会進行を行い、企画・運営へも参加しました。(入場者415人) ②パトロールの実施 年間を通じて、校区ごとに夜間パトロールを実施。(延べ352人が参加) ・健全育成啓発活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ①街頭啓発活動 町行事や町内の商業施設で啓発物の配布等の活動を行いました。(延べ102人参加) ②青年層育成活動 8月26日(日)にキッズダンスコンテストを開催しました。(入場者450人) <p>平成27年度から始まった絵看板の設置を契機に、子ども達による「あいさつ運動」が町内に浸透し、次代を担う青少年が心身共に健全に育つ過程を目にすることで、地域の大人達が良い影響を受け、見守り活動が活発となり、そのことが非行を未然に防止する抑止力となることで、町民が青少年問題への関心を高める機会となり、社会全体で子どもを見守っていく活動となるように事業を継続していきます。</p>		
事業名	決算額 職員数	点検・評価
成人式事業 (成人式経費)	645千円 0.34人	新成人による実行委員自らが企画・運営したことでまとまりのある式典を開催することができ、成人を迎えるにあたり、責任と自覚を持つ機会となりました。 開催日 平成31年1月13日(日) 対象者 263人 出席者 206人(出席率 78.33%)
文化事業 (イベント経費) (公演委託料)	23,046千円 0.61人 ※入場料収入 5,092千円	歌舞伎やミュージカル等様々なジャンルの自主事業を実施するなかで、町民が身近な場所で東員町に縁のある題材を用いた文化事業に触れることができました。 ・第23回こども歌舞伎公演 日時 6月10日(日) 14:00~ 入場者 633人 ・ミュージカル(第6弾)3回公演 合計入場者 1,593人 日時 11月24日(土) 13:30~・18:00~ 11月25日(日) 14:00~ ・東員「日本の第九」演奏会(第30回) 日時 12月23日(日・祝) 14:00~ 入場者 577人 ・第37回音楽祭 日時 平成31年2月3日(日) 12:30~ 入場者 356人
総合文化センター維持 管理事業(維持管理経費)	52,139千円 0.59人	総合文化センター内の誘導灯改修工事及びびばりホール舞台照明器具等の改修工事を行い、施設の適切な維持管理に努めることで、利用者への利便性を図りました。
公民館諸事業 (公民館諸事業経費)	3,475千円 0.67人	公民館講座は、(一社)東員町文化協会に委託し、年間を通じて成人を対象に洋裁教室などの24講座を開講、218人が受講しました。また、「こどもカレッジ」として、小学生を対象に、土日及び長期休暇に体験型学習講座を実施。親子で体験する講座も含めて9講座延べ289人が参加しました。様々な学びの場に参加できる機会を提供することで、大人から子どもまで年齢に関わらず、生涯学習への関心を高める一助となりました。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
笹尾コミュニティーセンター運営事業 (笹尾コミュニティーセンター経費)	8,196千円 0.25人 臨時職員1.99人	常時1名の臨時職員を配置し、隣接する笹尾連絡所と一体的に管理運営を行いました。夏季の高温に対処するため1、2階廊下にエアコンを設置しました。このほか、動作不良となった火災受信機(複合盤)の取替え、雨漏りに伴う屋上防水の部分補修、2階会議室天井の蛍光灯照明器具が一部点灯しなくなり修理不能であったためLED照明に取替え対応するなど、施設の利用環境の向上と維持管理に努めました。
東員町・大台町子ども交流事業	507千円 0.04人	東員町の小学生(4~6年生)30人と大台町の小学生(5~6年生)10人が1泊2日のキャンプを通して自然に触れながら交流を深め、社会性を身につける機会となりました。 【実施日 8月27日~28日(1泊2日)】
図書館運営事業 (図書館経費)	20,107千円 1.81人 臨時職員4.0人	図書館司書による選書のもと、蔵書の充実をめるとともに図書のリサイクル会を開催し、年数経過等により不用となった図書の有効活用を図りました。また、プレールームでボランティア団体(朗読ひばりの会)による読み聞かせ会や人形劇の鑑賞会を行って児童サービスの充実を図り、学校教育と連携して引き続き「東員町読書登山」による子どもの読書活動の振興に努めました。9月22日(土)には、当日開催されたとういん市民活動支援センター主催の「わくわくフェスティバル」と協働して「わくわく読み聞かせ会」をプレールームで実施し、大型絵本・紙しばい、ロール絵本の読み聞かせを行いました(子ども24人、大人24人入場)。
文化財調査委員会事業 (文化財調査委員会経費)	35千円 0.02人	平成31年2月15日(金)に文化財調査委員会を開催し、町指定天然記念物の保護の状況、郷土資料館の活用について審議しました。枝枯れが進んでいる観音もみじについては、種子を採取するなどして次の世代を育てるべきとの意見が出されました。開館2年目の郷土資料館については、展示物の説明ができるようシニアクラブとの連携を図り、資料館を紹介するPRをもっと行うことなど、活性化策の提案をいただきました。
文化財保護事業 (文化財保護経費)	1,593千円 0.20人	町指定天然記念物であるトウインヤエヤマザクラ及び山田半ノ木谷イヌナシ自生地等において、樹木医に保護作業を委託し実施しました。また、県指定無形民俗文化財「猪名部神社上げ馬神事」及び町指定無形民俗文化財「六把野獅子舞」の維持・保存を図るため、保持団体に補助金を交付しました。 【トウインヤエヤマザクラ】 平成29年6月に取り木して移植したトウインヤエヤマザクラ(第1号)後継木は順調に生育しており数年先には開花が期待されます。第2号は元気で例年どおり開花しました。次世代の子孫を残し増やすことを目指して、樹木医の管理のもと第1号で6本、第2号で19本の挿し木、鉢上げに取り組みましたが不成功でした。次年度以降も取り組みを続けます。 【観音もみじ】 生育を阻害するカミキリムシを駆除するための薬剤散布を引き続き実施しましたが、台風による枝折れや年数経過が原因と見られる枝枯れが進んでいるため、種子からの次世代の育成にも並行して取り組みます。
郷土資料館運営事業 (郷土資料館経費)	89千円 0.05人	城山小学校北校舎1階を郷土資料館として、事前申込み制により見学を受け付けています。平成30年度は見学者数が大きく減少したため、授業の教材として活用してもらうよう小学校へのPRのほか、文化財調査委員会からの提案を実現できるよう取り組みます。

事業名	決算額 職員数	点検・評価
ニュースポーツの普及・ 推進事業	682千円 0.05人	スポーツ推進委員の活動として、10月27日（土）に中部公園を利用したパークゴルフ大会を開催、町主催の町民体育祭の企画運営等を行いました。また、三重県・北勢地区のスポーツ推進委員講習会、研修会に出席する等ニュースポーツ普及、推進のための研鑽に努めました。
県スポーツ大会への参加、 町主催のスポーツ大会の 開催	2,853千円 0.20人	第12回「美し国三重市町対抗駅伝大会」が、平成31年2月17日（日）に開催され、町代表選手10人が県庁から県営総合競技場までの約42kmのコースでタスキをつなぎ、結果は29市町中「町の部」で4位でした。 ※町主催の体育行事は次のとおりです。 10月14日（日）第60回町民体育祭 23自治会 12月9日（日）第51回町民駅伝大会 21自治会 なお、町主催事業は歴史もあり、スポーツによる地域振興や健康増進等の機会として十分な役割を果たしておりますが、子どもの減少で選出が難しい地域もあり、種目の見直しも必要で、今後のあり方が課題です。
スポーツ関係団体への育成 支援	5,359千円 0.22人	総合型地域スポーツクラブ「とういんフレンドリークラブ」は、町民の誰もが気軽にスポーツに参加できるよう、スポーツ教室やスポーツイベントを行い、町民ニーズの把握と、魅力ある企画に努め、町民の健康増進に寄与することができました。 体育協会は各種競技大会を通じ、参加者のコミュニケーションと体力向上、競技レベルの向上を図りました。また、スポーツ少年団はスポーツを通じた子どもたちの健全育成を図るため、指導員の養成や各種大会等を実施することができました。 なお、「東員町スポーツ協会」については、体育協会・スポーツ少年団・フレンドリークラブの3団体が有機的に連携し、生涯スポーツの振興と健康増進を担うための支援を行うと共に、町民体育祭や町民駅伝大会の企画運営及び「美し国三重市町対抗駅伝大会」参加についての運営を委託し事業を実施しました。 これら3団体の統合により、事務局も効率的に機能し、団体間の調整も容易となったことから、今後も町民の誰もが参加しやすく、スポーツを通して健康維持や交流ができる場を充実していくよう次年度以降も支援に努めていきます。
体育施設整備事業	12,586千円 0.12人	体育施設の状況については老朽化が進んでおり、城山テニスコート人工芝改修工事（2面）を実施しました。また、城山球場の電気設備の改修を行ない施設の安全管理に努めました。 今後の課題として、体育施設の老朽化が進み、整備にかかる経費が高額になる中、計画的に施設整備を考える必要があります。
体育施設運営事業 （学校体育施設運営事業 含む） （維持管理経費）	51,313千円 0.81人	町体育施設は一般利用者のほか、1年を通して自治会対抗行事、スポーツ少年団活動、フレンドリークラブが企画した教室等の会場として利用されています。町民プール開業期間は天候に恵まれ、利用者数は28,420人と前年度比で約1千人ほど増となりました。 学校体育施設開放については、町民にとって最も身近なスポーツ施設として地域の団体やグループの方の卓球やバレーボール、バスケットボール等の練習などに活用し、陸上競技場については、平成30年度はサッカーの専用使用が増え、使用料が前年度比で約3百万円増となりました。 より多く町民の健康増進に繋がるよう、利用者が安全に施設を利用することができ、楽しくスポーツに取り組めるよう施設の維持管理と運営に努めています。
（使用料収入） 体育館・武道館 7,619千円 陸上競技場 13,755千円 町民プール 15,916千円 中央球場・テニスコート 7,175千円 城山球場・テニスコート 5,557千円 長深グラウンド 1,270千円 その他体育施設 21千円 計 51,313千円	（使用料収入） 9,213千円 7,099千円 3,670千円 821千円 2,392千円 16千円 1,456千円 計 24,667千円	

IV 学校（幼稚園・保育園、小学校、中学校）の評価

東員町学校（園）教育目標「確かな学力と豊かな人間性をもとに社会に参画する力（自己実現と社会の発展に貢献する力）の育成」の実現に向けて、各園・学校が様々な実践に取り組みました。特に各園においては、本年度から施行された保育所保育指針と幼稚園教育要領に記された目標や保育教育内容を具現化するために互いの保育等を見合ったり、外部講師や指導主事を招聘したりしながら研修しました。小中学校においては、令和2年度以降からの新学習指導要領に記されている「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業づくりについて研鑽しました。

自己評価の結果を見ると、各学校・園ともに概ね目標を達成しているといえます。目標を達成した項目分野に関しては、教育委員会としての取り組み・支援についても、一定の成果をあげたものと自己評価するところです。しかし、各学校・園において評価が低い項目に関しましては、教育委員会全体でその要因を分析し、次年度以降の重点的な支援について検討する必要があると考えます。

※平成27年度より特に重点を置く項目を絞り込み、統一した形で、年度末に達成度を自己評価しています。小中学校においては、学校評議員より評価に対する意見等もいただいております。

※本町は、幼保一体施設により3歳以上児は合同で教育・保育を実施しており、各園は教育・保育一体の取り組みについて自己評価をしています。

①幼稚園・保育園

各園が、子ども一人ひとりの発達段階を見極めながら、スモールステップで取り組んでいます。研修においては、発達支援室の協力の下、CLM（チェック・リスト・インMIE）研修が各園で実施されました。危機管理面では、食物アレルギーを持つ園児が増えてきており、アレルギー事故が起きないように対応マニュアルの周知徹底を行いました。

②小学校・中学校

確かな学力の定着という面では、全ての小中学校においてD層（低学力層）10%未満にするという目標に向けて、授業改善等を行いました。その結果、基礎学力の定着などについては、前年度と同様に概ね各校が目標を達成しました。今後は、基礎学力を土台として活用力、応用力の育成に取り組んでいきたいと考えます。

豊かな人間性を育むことについては、いじめ問題に対する取り組みをとおして、自他を大切にす心、思いやりの心を育みました。今後もいじめ問題や差別事象が起きた場合の適切な対応の周知徹底及び未然防止に向けた学級集団づくりを丁寧に行っていきたいと考えます。

健やかな体については、二中校区の学校が「つながる食育推進事業（文部科学省指定）」の取り組みを通じて、食に関する知識や意識の向上を図ることができました。今後は、この取り組みの成果を次のステップへつなげていくことや、一中校区の食育にもつなげていくことが大事だと考えます。

信頼される学校については、日頃から、児童生徒だけでなく、保護者や地域の方の思いや考えを掴みながら学校運営を行っています。学校評価アンケートや評議員会でいただく評価は概ね高いと言えますが、時折いただく厳しいご意見も学校との信頼関係があるからこそ出てくるものと考えます。今後も、この信頼関係をもとに、学校が地域のコミュニティの拠点となるよう地域と共に歩んでいきたいと考えます。

V 評価委員会の意見

評価委員会において、委員から次のようなご意見をいただきました。今後の教育委員会の運営及び点検・評価の参考にさせていただきます。

1 教育総務課に係る主要事業について

P 2

- (1) 小中一貫校の視察に行かれているが、東員町の小中一貫校（一貫教育）の見通しは。

P 6

- (2) 教職員が過重労働となっているのに教職員が減っている、依然として月80時間以上の時間外勤務をされている方が見えるが、面接だけやっても余計にストレスが溜まってしまう。地元の方にクラブ活動の外部コーチを手伝ってもらうなど、具体策を講じる必要がある。

P 6

- (3) 教職員の健康管理で具体的にどのような内容を行ったの記載したらどうか。

P 7

- (4) 食育の授業はどのような内容で、どのような効果があったのか。

P 7

- (5) 給食費の収入未済額が992,900円もあるが、これだけあると町民の方が気にされるのではないか。

2 学校教育課に係る主要事業について

P 1 0

- (1) 学力調査について、小学校3年生の国語の達成率の低さと、中学校の理科の達成率が、全国平均に達していないのは何か原因はあるのか。

P 1 1

- (2) 学校図書館に専門員が勤務しているが、設置することによって効果はどうか。
専門員が1名減になっているが、予算の影響はあるのか。中学校の読書意欲の低下の具体的な改善が必要と思われる。

P 1 2

- (3) 16年一貫教育の家庭への実践ですが、すべてのお子さんが家庭での教育で気持ちを下げないような配慮が必要であると思われる。

P 1 5

- (4) 有給休暇の取得日数ですが、保育園・幼稚園が8.6日、小中学校が10.2日となっているが、休め、休めという前に休める環境を踏み込んで整える必要がある。

3 社会教育課に係る主要事業について

P 1 6

- (1) 長年続けてきた青少年育成事業活動の効果が見えてこない。本当に予算を使う価値のある活動かどうか見直しが必要では？町民は事業が見えないし知らない、どのような効果があったのか。

(2) P 1 6～1 8

事業を行ったことを点検するだけでなく、効果があったこと、見直しなどの評価を行うように。

4 幼保、小中学校の自己評価について

- (1) 読書の評価で2の評価が2年続いている、何が課題でどのように対策していくか、中学生が本を読めるような具体的な環境づくりを行う必要がある。

- (2) 二中校区のつながる食育推進事業で小中連携の取り組みにおいて、トータルとしてどう受け止められたのか。具体的に評価理由や達成した秘訣、参考となることを表記されたい。

自己評価書

(幼稚園・保育園、小学校、中学校)

目 次

	ページ
【幼稚園・保育園】	
1 三和幼稚園・みなみ保育園	1
2 稲部幼稚園・いなべ保育園	2
3 神田幼稚園・東員保育園	3
4 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園	4
5 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園	5
6 城山幼稚園・しろやま保育園	6
【小学校】	
7 三和小学校	7
8 稲部小学校	8
9 神田小学校	9
10 笹尾西小学校	10
11 笹尾東小学校	11
12 城山小学校	12
【中学校】	
13 東員第一中学校	13
14 東員第二中学校	14

評価基準 ④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達や特性を把握し、月案を含めた研修で学び合い、個を大切に保育に努めました。保育者の姿勢を子に広げ、子ども同士認め合える集団を作り、内面も豊かにしていくことができました。 ・年齢に合った活動や遊びを通して、全体のねらいと個々のねらいを持ち発達に繋げました。自らの気持ちを大切に継続して取り組み、やり抜く力に繋がられるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共に保育していく事を普段から意識し、園の要望を優先しすぎず保護者の背景も理解し対応に努めます。 ・個々の弱みに対応できるよう支援や援助のスキルを今以上に高め、保護者が安心して相談できる園をめざし、より良い保育に繋げていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や個性を理解し必要な援助や認め励ましを実践していくことで、自己肯定感・自己有能感を高めることに繋がりました。 ・遊びの中から学びがある事を意識し月案・週案・日々のねらいを実践に繋げました。子の発想を共有し発展させた遊びに繋げる環境とクラス作りが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容や行事がマンネリ化してしまわないよう、豊かな環境作りで心身の成長を促していきます。 ・報告・連絡・相談を怠らず、個人で判断せず職員間が連携して対応していきます。 ・保護者から安心して相談できる園と感じてもらえるような対応をしていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・提案保育・年齢部会・園内研修を通して、遊びの中から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10」の実践に繋がりました。発達に合った遊びとねらいを立て、共に遊び思いを共有することを基本にして子ども達の遊び込む力をつけていきました。日々の積み上げは、90%以上の保護者が子どもの成長を感じているという結果に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以上児は単学級の為、年齢部会により各年齢の課題解決や、新しい発想を取り入れ情報交流していける場にして実践に繋がります。 ・自己研修・外部研修を報告だけに終わらず、どの様に子どもに反映させ活かし子どもの学びに繋がったかを報告することができる研修で、保育の向上に繋がっていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月計画的に様々な場合を想定し、地震・火災・洪水の避難訓練を行いました。川が近い所に立地していることから、地域のと共に円滑かつ迅速な避難が図れるよう年2回イオンの屋上への訓練を行っています。支援センター利用者と一緒に保育児も参加して訓練を毎月計画的に行うことで、未就園の親子にも災害について意識を持ってもらう機会になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性を周知して対応できるよう、危機管理マニュアルに基づいた定期的な訓練を研修に位置付けていく必要があります。 ・普段から事故を想定して保育を行うようにいき、気付いた事は後回しにせず、改善を素早く行い事故防止に努めます。また迅速な行動がとれるよう生活を意識し、運動プログラムを年齢毎に取り組んでいきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に上がるまでにつけたい力を認識し、各年齢毎にねらいをもって取り組みました。 ・年中～年長と2年継続しての交流を計画的に行うことで、子ども達同士の繋がりがより深くなっています。共に研修する保育・授業交流やCLM研修を通して学びを継続する事で、課題が明確になり「3感や」「やり抜く力」の育ちに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3感を育む子育て20のポイントを、実際の子どもの姿から今何を大切にしているか園便り・クラス便り等を通じて、地域や保護者にも浸透していくよう続けていきます。 ・引き続き小中との連携を継続していくと共に、参加や交流だけに終わらず研修や交流後に合同反省会で等さらに深め、その後に活かしていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問や個別懇談、連絡帳や送迎時、保護者の思いや悩みを受け保護者の立場になり共に考えるよう努力しました。支援に必要な知識を研修や会議等で高め、時には専門機関に学びながら保護者の育児の参考になるようにしました。保護者アンケートで「園は相談に誠意を持って応じていると思う」「やや思う」と感じている保護者が全体を占めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園だけで対応せず様々な関係機関とも連携をはかり、適切な方法で保護者の思いを受け止めていきます。保護者の求めているものに寄り添い、しかし大切にしていきたい事には誠意を持って伝えていくようにします。 ・早期・延長児が増え保護者と会う機会が減っていく中、各クラス保護者との信頼関係を深めていけるよう努力していきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育利用者は年々増加し、年間160日以上となりました。子育て不安や心労の軽減を目的とした利用が多く、専門機関と連携を取りながら保護者支援に努めました。未就園児の保護者の心労軽減に繋がりがリピーター率が高くなっています。 ・様々な地域と連携した農業体験は数年継続しています。親子参加型でも実地し、親子で農業に興味を持ち体験することで思いを共有し継続した取り組みに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターや一時保育利用者の傾向から、町内の中での核家族化が進み子育ての孤立化が増えてきています。未就園親子が気軽に足を運び、気軽に相談できる環境が作れるよう、未就園児の保護者と積極的に関わっていきます。

平成30年度 稲部幼稚園・いなべ保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達を的確に把握し、生活面を丁寧に見届け援助する保育ができました。そのことで子ども自身ができる喜びを感じながら自信をつけることに繋がりました。 ・手順表など写真掲示をしたり、視覚支援を活用することでわかりやすい保育に努めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿に寄り添い、一人一人を大切にしたり関わりを引き続き行っています。 ・毎月の月案討議は職員一人一人が時間配分や、検討内容を意識し有意義な研修とします。 ・提示した支援をどの段階で無くしていくか、支援の引き算を考えていくようにします。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から職員同士が子どもの姿や保護者の姿を交流する事ができ、共通認識の下で保育を進めることができました。 ・職員の特技を誕生会で披露したり、個性を保育に活かす事ができ、子どもたちの豊かな育ちを促しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えはしっかりと持ちつつ、一人で判断するのではなく他の職員の意見も聞きながら保育をするように努めていきます。 ・引き続き、職員同士で刺激し合い、保育の質の向上を目指します。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が参加した研修内容を伝えあうことで、学びを広げることができました。 ・年齢部会などで他園の先生たちと交流することで様々な援助の仕方を知り、自身の保育に活用することができました。 ・絵本のコーチングの研修に参加し、目の前の子どもの接し方を改めて考え直すことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の学びを継続し、子ども一人一人の遊びの始まりや、終わり方、過程をしっかりと見る事を大切にしています。 ・常に職員一人一人が自己研鑽するように意識し、学びを広める取り組みを進めます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は早朝保育時に緊急地震速報が発令されましたが、日頃の訓練を活かし、迅速に対応することができました。 ・訓練のみでなく、日々の保育の中でも色々な場面で、経験をさせながら危険なことについて伝えるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイルドカーシートの未着用もあるので、命を守ることとしての認識を訴え続けます。 ・エピペンの実施訓練は毎年2回行い誰もが対応可能な状態にします。 ・代替保育士や、長時間担当保育士とも避難方法や、個別対応が必要な児の情報共有し、事故防止に努めます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保育について興味を持って下さる小中学校の先生も多く、町教研の研修の中で乳幼児期の大切さを訴えることができて良かったです。 ・中学校の体育祭に参加させてもらったり、小学校との交流会を何度かさせてもらったことで、小中学生への憧れを持ったり、親しみをもち、進学することへの楽しみに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も園たより、クラスたよりで分かりやすく発信していくと共に、参観で実際の子どもの姿と結びつけて話をし、より保護者の理解を深めていきたいです。 ・小学校との交流は多いですが、中学校とのつながりがあまりないので、機会を作っていけるような発信をしていきたいです。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いに寄り添いながら一緒に悩みを考えあうようにしました。面談や、日頃の送迎時を利用して子どもの育ちを共に喜びあうことで、信頼関係を深めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園に子育てのすべてを任せればよいという考え方の保護者に対して、保護者の力も大きいという意識づけに力を入れていきたいです。 ・会えない保護者とは紙面上で連携を取りますが、送迎を担う祖父母をいかに巻き込んで、子育ての話をしていくかは、難しさもあり課題であると感じます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児のちびっこパークは園舎の外側フェンスにも日程案内の表を掲示したり、入園申請時に直接誘うなどして、昨年より参加人数の増加につながりました。 ・新たな地域ボランティアグループの方も誕生会などに参加して頂き、子どもたちの興味関心を広げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩など日常の保育の中にも地域の方のボランティアを募るなどして、触れ合う機会を作っていきたいです。 ・支援を必要とする児に対して、保健師発達支援室との連携が不足しているため、園からの発信を基に関係を密にしていきたいです。

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・CLMを活用し、スモールステップで取り組むことで個々の子どもの成長を支援することができました。また、支援がついていない子どもに対しても個々の内面理解に努め、無理のないように保育をすることができました。 ・一人ひとりの成長や課題を理解して、その子に合った援助を心がけました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても気になる子に気持ちが向かいがちですが、職員間の連携を図りながら、自己発揮できていない子にもっと心を寄せると共に、より専門的な知識をつけていきたいです。 ・全体月案では他の学年、クラスの様子を共通理解して効果的な援助に繋げていくようにします。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に子どもの姿や困り感のある子に対して援助の仕方や環境作り等、職員間で工夫しながら環境を整えることができました。 ・相談しやすい職場なので保育の悩み等、一人で抱え込むことなく発信できました。また、共有することで園全体で保育することに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員自身の3感を高め、得意なことを活かせる場を作っていきます。 ・時間を決めて、短時間でも必要事項を伝えあえるように、日々のコミュニケーションを取っていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・町幼保研修において他園の活動や取り組み方、指導方法を学び、自分のクラス、学年でも積極的に取り入れることで保育の質を高められました。 ・研修の方法を工夫し、経験年数に関係なく意見を出しやすくすることで、多くの意見を取り入れながら学びの場を広げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを一つでもまずはやってみるという意識を持つようにします。 ・日々の記録や反省、振り返りの時間をもち、次の保育に繋げていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー事故がないようにマニュアルを厳守し、職員の連携の徹底を行ったため無事でした。 ・子どもの怪我の中には想定外の状況も多いですが、適切な対処、保護者への丁寧な対応を行ったことが、保護者とのトラブルが起きなかった要因と考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が発生した時には、次への危機回避にも繋がるので必ず全職員に報告をして、職員間で事故要因等を共有をします。 ・子どもの行動は予測が困難ですが、定期的に園舎内外の環境点検を行い、危険個所の早期発見、対処に努めます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て手引き版をもとに、保護者に対し講演会を開いたり、園便り等で子育てのアドバイスをわかりやすく発信しました。 ・小学校との研修や交流の場において発達を系統的に捉え、大切にポイントを認識しあうことで連携を深めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との交流では、小中学校が主になり園児が遊ばせてもらう形が多かったので、それぞれのねらいを明確にし、互恵性があるようにしていきます。 ・小中学校との研修では互いの課題を出すだけではなく、連続した学びについて深められるようにしたいと思います。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が活躍できる場を作ることで、園児の中で力を発揮し、保護者の自己肯定感を高められる機会となりました。 ・何気ないことも積極的に話すことで、保護者からも話してくれるようになり、悩みを受け止めたり成長を共感していくことで、信頼関係を築くことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる場を設けると共に、保護者の困り感に答えられるよう知識や経験を増やしていきたいです。 ・子どもや保護者に対し肯定的な受け止め方や言い方、丁寧な言葉使いを心がけ、気になる事は速やかに伝えるよう心掛けていきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域資源開拓の他に、保護者や保護者OBにも呼びかけをして知識や技術、得意とする事等を子どもたちに提供してもらいました。 ・シルバーボランティアによる環境整備及び教材準備、行事参加での子どもたちとの交流をすることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちびっこパークの参加者と在園児との交流の場を作っていきます。 ・ちびっこパークの主な利用者は在園児の兄弟が中心であるため、ちびっこパークの認知度を広められるよう発信の仕方を工夫し、利用者の拡大を図りたいと思います。

平成30年度 笹尾西幼稚園・笹尾第一保育園 自己評価書

評価基準(④目標を上回って達成した ③目標通りに達成した ②目標を少し下回った ①目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の中で子どもの発達を丁寧 に掴んでいき、個々に応じた支援、指導、 援助を考え実践することができました。 ・クラスの子だけではなく、他学年の保育 者同士情報を共有し、発達の援助に繋げ てきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂された幼稚園教育要領・保育所保 育指針を熟読し学びを深め一人一人の力 を確実につけるような研修に取り組んで いきます。 ・保育者一人で抱え込むのではなく、園全 体で子どもの姿を捉え、全員で支えてい けるよう情報の共有に努めていき、よりよ い保育に繋げていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・3感を土台にした教育目標達成に向け、 職員同士が密に連絡・報告・相談を行うよ う意識し、連携を深めました。 ・個々の姿から遊びが発展していくよう玩 具作りや保育室の環境を整えることで一 人一人がじっくりと遊べる環境作りを大切 にしてきたことで、友だちと関わり遊ぶ 姿、好きな遊びをじっくりと楽しむ姿が見ら れる様になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を言いやすい職員関係を大切にし、 お互いを認め合いながら保育者自身の3 感を高めていきます。 ・教育目標や一人一人に対するねらいに 沿って今日の子どもの遊びから明日に繋 ぐ保育を構築する力を職員全員が身につ けることや他の職員から学び自分の保育 にも活かしていける職員集団を目指しま す。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外研修、自主研修など様々な研修 で学び、職員間でも広めていき、日々の 実践に活かせるように努めてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や部会などの機会に自分の保育の 振り返りをし、関わり方、環境等よりよ い保育に繋げていきます。 ・保育者自身も子どもと一緒に考え、学ん だり見聞を広めるため講演会などにも参 加し学びを職場に広め、互いに保育の質 を高めていけるよう、努力が必要だと感じ ています。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・員弁署の方にも来ていただき、不審者対 応についての実践から対応を学び、各保 育室に防犯ブザーを設置するなど職員の 意識を高めることが出来ました。 ・プールや散歩でも怪我や事故の無いよ う意識して動き、話し合いをしてきました。 ・毎月の避難訓練、消防署立会いのもと の訓練等を行う中で、職員、子ども達共に 意識を高めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面で臨機応変に動ける職員 集団にするためには更なる演習・研修を 継続させていく事が必要だと思います。 ・園外、早朝・長時間保育時、給食、午睡 時など様々な時間を想定した訓練を年間 計画に組み込んでいきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・町教研やCLM等の研修では相互の職員 が学び合い、理解を深めました。また、園 児は小中学生との交流や小学校へ出向 き、「おもちゃランド」「秋祭り」などで交流 する機会を持つことにより、進学への憧れ と期待を持つことが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の幼稚園教育要領・保育園 保育指針改定に基づき、より一層保育の 質を向上させ、小学校に繋げていきます。 ・保育者自身がさらに16年一貫教育プ ランや「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿」への理解を深め、保護者への発 信を日々の保育と結びつけながら伝えて いく学級たよりを作成したり、懇談会等で 伝えていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の帳面や送迎時などの機会を活用 し、子どもたちの様子や成長を共に喜び 合い、保護者の悩みや不安への気持ちに 寄り添ってきたことで、信頼関係を深める ことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で隣人との付き合いの無い方、国 籍が違う方もみえるなかで、個々の困り 感に寄り添いながら信頼関係を深め、他 とのつながりを付けていく援助していく事 が課題です。 ・16年一貫プランや子育ての手引き版を 活用し、保護者との信頼関係を深めてい けるよう努力します。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会などでは地域の色々なサークル の力をお借りし、また今年度からは「お助 け隊」を結成して園児の祖父母の力をお 借りし、絵本の読み聞かせや栽培活動を 通して交流を深めることが出来ました。 ・園外保育に出掛けた際に地域の方に保 育者が挨拶をする姿を見せていく事で、 子ども達も進んで挨拶をするようになって きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の未就園の子が何人いるのか他の 課と情報交流し掴み、ちびっこパークへの 利用を促していきます。在園児の弟妹な どへもちびっこパークの案内の掲示など をして利用を積極的に働きかけていき、さ らなる開かれた園づくりを目指します。

平成30年度 笹尾東幼稚園・笹尾第二保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、得意、苦手、興味、関心等を掴み共に楽しむことを大切にしてきました。一人ひとりに合った関わりを実践し子どもの力を信じてその力を引き出す保育に努めた結果『園での活動を通して心身の成長を感じる』との保護者アンケート項目で、今年度において大変好評価を頂きました。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も常に目の前の子どもの姿を見て立案し、一人ひとりの子どもとの信頼関係を基に、保護者と共に子どもの発達を支える園づくりを進めていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を發揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 同学年、未満児、以上児間など常に連携を心がけ、力を合わせて教育目標の達成に取り組んできました。 些細なことでも話し合える心地よい職員関係の中で、良いところを認め合い協力することで豊かな環境に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外遊びの時に危険がないように、職員間での連携を密にしていきたいと考えます。 様々な教材・環境について、研修の場で学んだものが活かされるよう新しい発想も大切にして、その時々合った環境構成を考えていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育推進事業を受けるにあたって様々な観点から『やり抜く力』を見つめ実践していくことができました。子どもに何か一つのことをやり抜くよう頑張らせるのではなく、普段の保育の中でこそ育つ力を掴むべきであることを話し合いました。子ども理解を深め子どもの学びを支える力に繋げることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 改定幼稚園教育要領・保育所保育指針の学びをさらに深めて、現状に満足せず高め合っていくことを目指します。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 給食、おやつのアレルギー確認を、アレルギー対応ボードや声掛けで調理員、担任ともしっかり連携をとり、対応することで事故防止に繋がりました。 毎月の避難訓練を順番に立案することで、子どもたちに伝えたいこと、命を守るためにはどうすればいいのかなどより具体的に考え意識を高めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が常に危機感を持っていること、そして臨機応変に対応できることを心がけていきます。 子ども同士のトラブルには発達過程をしっかりと理解した上で対処していきます。 アレルギー対応は引き続き職員全体で周知徹底をしていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が集まる場では必ず16年一貫教育の話を取り上げ、大切にしたいところを伝えてきました。 東員町の幼保小中の研修の積み上げで、幼児教育の大切さを理解し、各行事で連携を取り、充実したものとなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 16年一貫教育について、クラス便り等でより意識できるような投げかけを今後も考え取り組んでいきます。 連続した学びを更に充実させていくため、日々の保育においてより明確な目標を持っていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 信頼関係が構築されてきたからこそ、様々な悩みや相談をしていただけたと感じています。まずは、保護者の話を真摯に受け止め、目の前の子どもを見つめながら、園と家庭が共に子育てをすることで、成長を喜び合うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭に理想を押しつけるのではなく、それぞれの家庭の背景を掴み、それぞれの家庭に合った伝え方をし、子育て支援に努めます。 懇談会や家庭訪問だけでなく、日頃から気軽に相談できる園全体の雰囲気作りを大切にします。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ちびっこパーク、運動会、散歩、焼き芋、クリスマス会、わたげの会絵本読み聞かせ、小中学校との交流会など様々な関わりを地域の方と持つことができました。 ちびっこパークは保護者のちょっとした疑問などを気軽に相談できる場となり、保護者支援に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児の保護者に“園はこんな取り組みをしている”という発信をするなど、もう一歩開かれた園づくりに努めていくことが必要ではないかと考えています。発信方法を模索していきます。

平成30年度 城山幼稚園・しろやま保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人ひとりの子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・研修などを通して、様々な視点から子どもの姿や心の動きを捉えることの大切さや支援方法を学ぶことができ、全職員で子どもの発達を共通理解することができました。 ・保護者アンケートでは、子どもの長所や困っていることを理解し、個々に応じた適切な援助や指導を行っている、99%の保護者が答えてくださいました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も全職員が一度は他の職員の保育を見る機会を持つようにします。 ・保育者自身がしっかり学んでいくことが何より子どもの発達を支えることに繋がる為、今以上に意欲的に学んでいく姿勢をもっていきたいです。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・CLM、わらべうた、環境認識等、学んだことを職員間で共有し、各年齢の発達に合わせて自分の保育に活かすことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体の連携をより大切にしながら、職員全員が同じ意識をもって教育目標達成のための学びを深めていきたいです。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して自分の保育の振り返り、分析をすることで、子ども掴みができるようになり、様々な角度から子どもの学びを援助することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを、すぐに保育に活かすことができず、子どもの発達に必要な援助をする時期を逃したこともありました。教材準備等を迅速にし、的確な援助が出来るように努めていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、アレルギー対応、事故報告、ヒヤリハットの事例等、職員間で共有できました。どんな場面が危険か、本人以外の周りの子どもたちの意識を高め、みんなで守っていくことの大切さ等を発信していくことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の職員打ち合わせの場を利用し、今以上に事例を話していくことが必要です。各年齢に起こりやすい事故を知ることで防ぐことや危機管理の意識を高めていくことに繋がります。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・連続した学びとなるようにそれぞれの年齢で大事にすべきことを押さえつつ、1つの活動をやりきる保育を大切にしてきました。 ・勤労体験やプラスバンド部との交流で園児が小中学生の姿に憧れを持つ良い機会が持てました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の合同研修などお互いに学び合うことで積み重ねを意識して、子どもの育ちを支えていきたいです。 ・幼保小の子ども同士が交流を持てる機会をもっと増やしていけると、お互いの子どもの姿や大事にしている事をより深く理解していきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とコミュニケーションを積極的にとることで信頼関係が深まり、より園の取り組みを理解して協力してもらえたり、一緒に考えながら子どもの成長を共に喜び合ったりすることができました。 ・就学・進級・子育てに悩む保護者に声をかけ、関係機関とつないだり、子どもへの支援を一緒に考えたりする機会を持ちました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいることを発信できない、懸命に取り組んでいても子どもの姿に変化が見られないと悩んでいる保護者もみえるので、話す機会を増やしていき、更に保護者との関係を深めていきます。
7	未就園児の親子や地域の人々と交流を持ち、開かれた園づくりに努めることができましたか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の入園児に園の様子を知ってもらう機会にもなるのでちびっこパークに足を運んでもらえるよう声をかけました。 ・シニアの会や民生委員の方々と一緒に行事を楽しんだり、昔からの遊びを教えてもらったりする機会があり、地域の方の温かさや、普段とは違った刺激を感じることができたように思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも未就園の保護者や地域の人とコミュニケーションをとり、園を身近に感じてもらい、一緒に子どもたちの成長を見守っていききたいです。

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：人として、心豊かに生きる子 ～優しく 賢く 逞しく～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	3	・朝学習で、国語と算数のテキストを活用したスパイラル練習に取り組み、学年末テストの全校定着率が漢字96.7%、計算92%となった。 ・1～4学年の算数で少人数授業(1,2年はIT指導)を実施し、IRT学力調査の結果では、全校平均で7.1P全国より高く、大きな効果をあげた。 ・東員学び検定は計画的に取り組み、平均96点で全員が合格した。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・各種学力調査の結果分析を行い、D層支援と授業改善に生かした。 ・全学級提案授業を年2回行い、教師力と授業力を磨き合った。 ・三重大守田教授を4回招聘し、読解指導等の方法を学び実践した。 ・「ペア、グループ学習」「反応名人」に力点を置いた授業づくりを行うことによって、学び合う姿が徐々に見られるようになってきた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・「家庭学習のすすめ」を作成・配付すると共に、チェックシートを毎日活用し、家庭との連携を図り、家庭学習の定着化を進めた。 ・宿題を丁寧に点検し、学習時間の意識化と直しの徹底を進めた。 ・家庭学習の時間(1年20分、2年以上10分×学年)を意識して取り組んだ児童は97%であった。引き続き、家庭学習の習慣化に取り組む。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	3	・朝の10分間読書を毎日確保した。年間を通して「朗読ひばりの会」による読み聞かせを行い、児童が本に触れる機会を増やした。 ・図書館専門員を活用し、ブックトーク、ブックバイキング、ライブラリークエスト等、本への興味関心が高まる読書活動を実施した。 ・週末読書、読書登山の目標読破に取り組み、既読冊数が増加した。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・道徳教科書教材を中心に、年間35時間以上の授業を全学年が実践し、児童の道徳的心情を養った。 ・人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 ・道徳科の授業実践を通して、年間指導計画の見直しを図った。 ・今後も「考え論議する道徳」のあり方を学習し実践につなげたい。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	4	・人権週間で人権の授業参観を実施し、保護者への啓発を行った。 ・年4回はいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 ・「東員子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 ・児童理解と支援のあり方を追求し、特別支援教育の充実を図った。 ・巡回相談やスクールカウンセラー等の関係機関との連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・月2回のSST実施で、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。また、適宜「人の関わり方」を指導した。 ・児童会中心にあいさつ運動を実施し、あいさつの推進に努めた結果、「進んであいさつする」児童は97%となった。 ・年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・児童会を中心に「より良い学校づくり」として、目安箱設置、あいさつ運動、運動場のルール決め等、自治的活動を保障し進めた。 ・児童会では、児童会行事を年間2回実施し、企画運営力を培った。 ・運動会縦割り種目、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組み、高学年のリーダー性を養った。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体育の授業では、体力テストの課題克服(柔軟性の強化)を実践し、全国体力テストでは男女共が全8種目とも全国平均を上回った。 ・運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 ・東員縄跳び検定では、のべ47名のボランティアさんの協力を得た。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・PTAと連携して年間3回の生活習慣見直しウィークの取組を実施し、朝晩歯磨き94%、早寝早起き84%、毎日朝ご飯98%となった。 ・学校歯科医によるブラッシング指導や歯磨きカードの取組を通して食後の歯磨き習慣の定着を図った。 ・給食指導、食育、弁当作りの指導を実施し、食の意識が高まった。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・三代交流餅つき大会をはじめ、地域の方々との交流活動を行い、地域と共に歩む学校づくりの一環となった。 ・保護者と児童アンケートを実施し、その結果を分析しいかした。 ・年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAを確立した。 ・学校評議員会を年2回開催し、様々な視点からの意見を頂いた。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・学校安全ボランティアによる下校見守り活動を実施した。 ・PTA交通当番活動の実施により、無事故で安全な登校ができた。 ・避難訓練2回、引渡し訓練1回、防災教室各1回を実施した。 ・学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡や説明も適切に行った。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員意見より

・様々な取組や実践をしっかりとやってもらっている。その成果が十分見られ、概ね妥当な評価だと感じる。
・地域に落ちているごみを自主的に拾っている子どもたちの姿を見て、心の面が育っていることを感じ嬉しく思った。今後も、学校・家庭・地域が共に子どもを見守り関わっていくことを大事にしたい。
・子どもたちをきめ細やかに丁寧に指導し、一人ひとりに愛情をかけ、大切に教育していることが伺える。
・あいさつの取組が幼保小中の垣根を越え交流できていることが素晴らしいので、継続していただきたい。

平成30年度 稲部小学校 学校自己評価書

学校経営理念：稲部の3I=Insight(内面の成長) Intention(意思ある子ども) Integrity(素直さ)

学校教育目標：やさしく たくましく 知性豊かな子の育成

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間の学習 ・東員学び検定 等	3	・漢字や計算の定着率は共に95%以上となった。また、保護者アンケートからも基礎基本の定着は80%が肯定的だった。 ・常時間や放課後を活用した補充学習は十分に時間が取れなかったが、学年末には復習時間を確保し、習熟に取り組んだ。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析 ・研修会・公開授業	3	・主体的対話的で深い学びに向けて、授業の改善を進めた。児童の学び合いのために必要な教師の授業力向上を図った。 ・IRT調査では正答率が80%を切る領域が増え、復習中心に弱み克服を進めた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導	3	・保護者へ「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭との連携をお願いした。85%は習慣の定着化ができていますが、まだ全員ではないため、放課後や休み時間を使って徹底を図った。 ・丁寧な学習の足跡として、ノート指導を低学年から進めた。高学年では自主学習ノートづくりまで指導を行った。
	読書の意欲向上	・朝読書の習慣 ・読書登山の取組 ・読書活動の取組 等	3	・朝読書、読書登山の他、読書イベントにも取り組み、児童の読書意欲が高まった。 ・学校図書館専門員と連携し、読み聞かせや読書感想文に挑戦し、3名が入選した。 ・今年度は昨年度よりも読書登山達成者が増えた。(82名)
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・「教科道徳」の充実 ・各教科、領域との関連 ・重点項目の取組	3	・「特別の教科 道徳」では、教科書に沿って取り組めた。今年度の重点項目「思いやり」についても共通認識を持ち、授業を推進できたが、まだまだ日常生活の中で活かされている姿が弱い。 ・視覚障がいのある方との交流や地域間交流を継続して、障がいについての理解を深めた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画やカリキュラムの策定 ・「いじめ防止基本方針」の充実 ・特別支援教育の充実 等	2	・毎日の児童観察、アンケート等で、定期的に児童理解を深め、情報共有し、安心な環境づくりに努めた。 ・特別支援教育の研修を進め、適切な支援や障がいへの正しい理解を深められた。 ・いじめや差別の課題が起きたが、適切に対応・指導した。さらに未然防止に努める。
	コミュニケーション力の向上	・Q U調査・分析の実施 ・挨拶の取り組みと定着 ・約束やルールの徹底	3	・年3回Q U調査を実施し、結果の分析研修を充実させ、学級経営や個々の生徒への具体的な支援につなげた。これにより、どの学級でも一学期よりQ U調査の結果が改善された。 ・生徒会生活委員会のあいさつ運動が継続的に実施できたが、アンケートの結果は、わずかに下がっている。生徒の主体的な取り組みを進めるとともに地域家庭にも呼びかけていくことが大切であると考えた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、委員会活動 ・縦割り班活動 等 ・クラブ活動	3	・委員会や児童会では、児童の発案による活動を進めることができた。また、「あいさつ運動」では、中学校や幼保園との交流を進め、運動が広がった。 ・「感謝の会」は、地域の方との親密な交流やお礼を伝えるよい活動となり、地域からの評価が高かった。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施 ・東員縄跳び検定の実施 ・あさがおタイムの取組	3	・5月の体力テストを全校が行い、本校の弱み、学年の弱みをつかみ、体育の時間における運動量と基本的な体の動きを重点にして取り組んだ。 ・縄跳びボランティアを募り、縄跳び検定に取り組んだ。目標達成率が昨年よりも下がった学年があり、達成率は70%であった。
	保健教育の推進	・健康教育の推進 ・保健指導の実施 ・保健たよりの発行	3	・生き生き生活weekを学期ごとに行い、習慣化を図った。課題は、強化週間にしかっていない家庭があることである。 ・SNSとのつきあい方を親子で学習した。学習参加の保護者を拡大すること・継続して学習することが重要である。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・マニフェストの公開、自己評価の実施 ・評価委員会の開催 ・地域との連携	3	・学校はたより等で学校の様子を分かりやすく伝えたり、わかりやすい目標で教育活動をよりよくしている点で、保護者から94%96%肯定評価を受けた。 ・地域との連携においても、登下校や縄跳び、授業等で地域人材を活かすことができた。
	安全・安心な学校	・安全教育、教室の開催 ・訓練の実施 ・けが、病気への丁寧な対応	3	・今年度も事故なく、安全な登下校ができた。毎水曜の通学班指導の成果もあり、課題は減った。 ・安全教育も予定通り実施できた。実際の地震が起きた際も、児童自らの判断で動く姿も見られ、成果を感じた。 ・怪我への適切な対応ができ、保護者からも理解を得られた。

学校関係者評価委員意見より

・いじめ、差別の課題が保護者からの相談や児童自らの訴えによって発覚したが、学校や担任との信頼関係が構築できていると捉えられる。また、学校も正面からその課題に取り組み、児童や保護者にきちんと公表できることが評価できる。
・「収穫祭」から変わった「感謝の会」に参加したが、児童が企画運営したよい会であった。何よりも児童の生き生きした表情や動きが見られ、稲部小のめざしている子どもたちの姿がよく伝わった。指示されたことを行うだけでなく、自ら動くたくましい児童になってほしい。
・SNSの問題については保護者の責任が大きい。PTAとして責任を持って我が子を見守っていくべきである。

平成30年度 **神田小学校** 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知・徳・体の基礎を育み、学びに挑戦する子どもをめざして

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種テストの実施 テスト結果の分析等 職員研修の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の結果、ほぼ全ての学年の教科が全国平均を上回った。 全職員で分析した「強み・弱み」にもとづいて、学力を高めるために、多くの問題に取り組ませた。 問題の解き直しに取り組ませ、苦手な単元も集中して学習させた。 得られた成果を全職員で共有し、授業改善を進めた。
	算数少人数指導による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学び重視型算数少人数指導の実施 補充学習の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導により、学習意欲と学力が向上した。 じっくりコースとぐんぐんコースの成果率90%を多くの単元で達成し、全体の学力を向上させた。 算数教室を設置して、低学力層への対応を進めると共に、自主的な学習を促進し、D層10%以下を多くの学級で達成した。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝の帯時間読書 読書登山の取組 読書活動等の取組ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会が学期1回の図書館イベントを実施したり、貸出目標や読書登山の学年目標を設定して、読書意欲を高めた。 学校図書館支援事業の「読み聞かせ・ブックトーク」等を活用し、各学年が学期1回以上、授業に図書室を活用した。 一人あたりの貸出冊数が、49.1冊（昨年度比11.6冊増）に伸びた。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画の作成 特別支援教育の研修 他機関等との連携ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期、個別の指導計画を作成し、保護者との共通理解を図った。 特支学級の授業を公開し、特別支援教育について研修を深めると共に、各学級で生かせる指導を学んだ。 巡回相談の指導助言の活用や聾学校との交流も進めた。 校内特別支援委員会で研修を深めた。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画の策定 各教科、領域との関連 道徳の時間の充実ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画にもとづいて35時間以上を確実に実施した。 児童会が作成した「神田小ネットルール」を活用した。 情報モラル教育の取組により、ネットいじめは発生していない。 相手の気持ちを思いやる取組をさらに進める必要がある。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進計画策定 ソーシャルスキルの育成 Q U調査の活用ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画とカリキュラムを作成し、全教育活動を通して推進した。 6年生においては、人権フォーラムを契機に他校の実践に学び、自校の取組を高めることができた。 毎月曜日に定例化して、各学級でS S Tに取り組んだ。 Q U調査の分析をもとに、個への対応と仲間づくりを進めた。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童会、生徒会活動 縦割り班活動等 部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童会行事・運動会全校種目・全校討論会の企画運営を通して、児童のリーダー性を育てた。 児童会の『あいさつするンジャー』が全校に提起する活動を通して全校で『あいさつ運動』に取り組み、あいさつの声を増やした。
	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ不登校の早期対応 縦割り班活動等 部活動等ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや保護者との連携、児童の見守りによって、いじめの早期発見に務め、初期に対応して解決を図った。 縦割り行事や運動会全校種目において、異年齢集団の取組を通して「勤勉性」を高めた。
体： 健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの実施・分析 各種体育的行事の実施 東員なわとび検定ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「体力テスト」は、8種目中6種目で三重県平均を上回った。 目標に到達できなかった児童に「特別水泳」を実施し、泳力を伸ばした。 「東員なわとび検定」は、全校統一して体育の授業や冬休みの課題に位置づけて、意欲的に体力向上に取り組んだ。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育 計画的な保健指導 保健だよりの発行ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導として、全学年に「歯磨き」「手洗い」を指導した。給食後の歯磨きが定着している。 感染症の流行時に、手洗いやマスクの重要性を啓発し実践した。 年3回の発育測定を機会に、「健康」について指導し、自分の身体について関心を高めた。
信： 信頼される学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート 学校自己評価の実施 学校評議員会の開催ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童のようすを見られた学校評議員に、学校関係者として、教育活動全般や学校自己評価書について、意見をいただいた。 学校関係者（学校評議員）の意見を改善活動に生かし、教育活動を一層充実させている。 児童と保護者にアンケートを実施し、学校経営の改善に生かした。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全、防犯、防災教室の実施 けが、病気へのていねいな対応ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> けがや病気には、迅速かつ丁寧な対応を心がけた。 「防犯教室」を実施して、児童への安全指導の充実を図った。 安全ボランティア（約160名）の協力を得て、学校・地域・保護者の3者が連携し、児童の安全をはかった。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上をめざしてD層10%以内を目標に、「少人数指導」や「学び合い」に取り組んでいる神田小の実践は、確実に成果が表れている。→子どもが集中して学ぶ大型テレビの授業での活用が効果的。 人とつながる「あいさつ」や「感謝の心」を伝える言葉をさらに大切にしたい。 →大人が手本を示し、地域でも家庭でも学校でも、あいさつを指導していく。 「児童虐待」を防ぐために、学校の実践と見守りや地域での見守りを大切にしたい。
-------------------	---

平成30年度 笹尾西小学校 学校自己評価書

学校経営理念：学力向上と非認知能力（GRITを含む）の育成を図り、信頼される学校づくりを行う。

学校教育目標：自ら考え 行動する子

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> わからないことを「わからない」と言える学校環境作りをする。 合格点に達しない場合は、再度復習を行う。 朝学習の充実する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 市販のテストに於いて、国語については、1学期・2学期共に93%、算数は1学期が95%、2学期93%の到達度目標を達成した。 朝の学習は毎日実施した。 「東員町学び検定」の合格者が100%（再テストを含む）を達成した。
	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、「学びの共同体」の研修を実施する。 算数少人数授業の実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 三重大学准教授 加納先生や北勢教育事務所の中村先生の指導をうけ、研究授業において、具体的な子どもの姿をもとに研修を行うことができた。 少人数教育では、打ち合わせの時間を設定して、授業の進め方を統一し、系統的な指導を行い学力向上を図った。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の内容や目安の便りを配布する。 学期に1回、家庭学習強化週間を実施する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を各学年の目標時間通り取り組めた児童は95%であった。 今後も日頃から学習時間を意識するように児童に伝えたり、保護者への啓発を大切にしていける。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の推進する。 図書支援員の積極的な活用を行い、読み聞かせ・調べ学習の充実を図る。 読書登山読書週間を設定し、取り組みを進める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 低学年の読書量が大幅に増えた。「東員町16年一貫教育プラン」で幼保の連携や家庭との連携が効果を上げている。 図書支援員の協力により、教科書にのっている本のコーナーをつくった。 読書登山週間を年間3回設け、朝読書で全員が読書登山の本を読んだ。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から実施の「特別な教科 道徳」の教員研修を行う。 学年に応じた計画を作成し実践する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 道徳年間計画を作成し、共有化も図っている。特に今年度は教科化されたこともあり、年間指導計画を大幅に見直し、授業確保と授業方法の研修を行った。 道徳の先進校に研修に行き、学んだ。 年度末に、カリキュラムの見直しを行った。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画及び年間計画を作成する。 人権教育カリキュラムを実践する。 Q U調査を学期1回、年間3回実施する。 いじめの早期発見・早期対応 	3	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体計画及び年間計画を作成し、すべての教育活動の中心に据えた人権教育実践を行った。 「校内人権週間」を設定し、集中的に人権について考える機会を設けた。 Q U調査を行い、全教員で共有化する研修会を行った。 命を大切に育てるために、「三重県いじめ防止条例」や「東員町子どもの権利条例」の学習を行った。
	コミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとの関わり方や自己肯定感を高めるための授業を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にソーシャルスキルトレーニングを実施し、関わる力の育成を図った。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、児童会による挨拶運動の実施する。 縦割り班活動【縦割り班遊びや運動会の縦割り班競技】の実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童会・地域の方が一緒になって「挨拶運動」を行った。 毎週金曜日になかよしタイムをもち、縦割り班遊びを行い、異年齢集団の育成を図った。 運動会で縦割り班競技を行い、6年生のリーダーシップの育成を図ると共に、コミュニケーション能力の育成を図った。
体： 健やかな 体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全校で体力・運動能力調査を実施する。 基礎的な運動の到達度を調査し集約。指導に生かす。 東員町のなわとびカードを利用し、全校で取り組む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりチェック（目標達成率75%）に取り組んだ。 体力・運動能力調査を行い、昨年度の結果と一緒に「成長の記録」として渡した。 「東員なわとび検定」は、昨年度の反省から指導法の改善を行い、取り組んだ結果、1級到達率は、2年94%+26%、4年84%+23%、6年20%+4%で改善の成果が出た。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 保健教育の年間計画を立案する。 栄養教諭と協力し、食育指導や給食指導を全学年で実施する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 給食後、校内巡視を行いながら、歯磨き指導を行った。 自分の将来の健康を保持増進するためだということを基にして食育・保健指導・給食指導に取り組んだ。 各学年2時間の指導を実施し、文科省指定「つながる食育」の取組を行った。
信： 信頼される 学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民などの学校関係者の意見や評価を受ける。 応援隊の協力を依頼する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員・学校関係者評価委員会を年間2回ずつ実施し、ご意見やご助言をいただいた。 学校アンケートの実施ならびに学校評議員・学校関係者評価委員による評価を受けた。 年間のべ239人の応援隊・ボランティアに協力をいただいた。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> 下校パトロールを継続実施する。 交通安全教室、防災訓練、引き渡し訓練を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様、PTAによる登下校のパトロールを行い、児童の安全を図った。 年に1回、引き渡し訓練、交通安全教室、防災訓練を実施した。

学校関係者評価委員意見より

- ・教師は、子どもにわかりやすい言葉を使い、指導を行っていることがわかる。
- ・学習指導要領の移行についても、一つ一つのことに学校はきちんと考えて対応している。
- ・顔を合わせると、きちんと頭を下げてあいさつができる児童が育っている。（学校外でも）
- ・環境整備がしてあり、清掃などもきちんと行われていることがわかる。
- ・中央公園などで遊んでいても17時のチャイムが鳴るとすぐに帰宅する姿が印象的である。（家庭と学校の指導が浸透している。）
- ・いじめ「0」を目指して頑張してほしい。

平成30年度 **笹尾東小学校** 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：自ら学び、関わる力を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	2	・漢字博士大会公開日のテストの正答率は、85%を超える学年と超えない学年があった。 ・計算博士大会は90%を超える学年と超えない学年があった。 ・単元ごとに「ジャンプコース」と「ホップコース」への希望をとり自ら学ぶとする意欲を育てる算数少人数の編成を行った。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・学校アンケートにおける「授業がわかる」の割合は90%を越えた。 ・全国学力調査では、国語、算数、理科の全ての教科における正答率が県平均よりも上回る結果となった。特に、算数A問題については、県平均を大きく上回ることができた。 ・全学級が授業研究を年3回行った。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・家庭学習の手引きを作成・配布し、保護者にも協力を呼びかけ、共に定着を図った。 ・「家庭学習を忘れずに取り組む」の肯定的な意見は90%を達成することができた。「忘れずに取り組む」ということについては、どの学級でも忘れてくる子はほぼいない。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・保護者ボランティア、はつねの会、図書支援員による読み聞かせや本の紹介を月2回以上行うことができた。 ・「読書が好きである」と答えた児童は昨年とほとんど変化がないが、低学年では本を読むのが好きな子が多い。 ・6年生の読書登山70冊は、ほぼ全員達成できた。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	4	・道徳カリキュラムに沿った指導を行い、道徳の時間以外にも、あらゆる教育活動を通して、児童の心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを意識して、指導を行った。 ・岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生を招き、道徳授業の1時間の流れを全員が共通理解することができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権教育推進計画及び各学年の年間計画を策定し、これに基づいて取り組めた。 ・人権週間は、全校共通の取り組みと各学級の実態に応じた取り組みを行った。 ・特別支援教育推進委員会を定期的に開催した。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・QU調査の分析と交流会を行い、児童や学級の様子を共通理解し、今後のクラス作りに役立てた。 ・SST、ほめ言葉のシャワーなどを行い、仲間づくりを進めた。 ・人権週間に、全校統一の取組として、ペアでほめ言葉のカード交換を行い、人権意識の向上を図った。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・月1回の児童議会の中で、児童会目標を立て、どのようにすれば目標を達成できるのか、話し合うことができた。 ・縦割り班遊びは予定通り行った。遊びの後には、必ず反省をし自分たちの姿について見直すことで次の遊びにつなげることができた。 ・全校集会の場で、委員会の取り組みを発表した。
体： 健やか な体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・新体力テストの結果は、総合評価C以上の児童が75%であった。 ・東員なわとび検定では、5級達成が80%を上回った。 ・水泳の学年別目標達成率は92%であった。個別指導をし、きめ細やかな対応をした結果である。 ・マラソンは、朝マラソンや試走、本番の取組で、全員完走できた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・保健指導計画に沿って保健学習を実施した。 ・食育については、栄養教諭と連携した指導を、各学年2回（2時間）ずつ行うことができた。今年度はつながる食育推進事業で、出前授業や体験を通して学ぶ機会を持つことができ、食材や人とのつながりを深めた。
信： 信頼 される 学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	2	・学校評価アンケートの結果を公開し、現状の周知を図った。 ・学校評価アンケートで「学校の様子がわかる」は91%であった。 ・学校評価アンケートを実施し、結果と学校改善について保護者・地域へ発信を行った。 ・10月と3月に関係者評価委員会（評議員を含む）を開催した。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・防災マニュアルの見直しを行い、それぞれの訓練を実施した。引き渡し訓練は幼保・児童と連携して実施した。 ・下校安全ボランティア会議を月1回開催し、子どもの安全な下校について話し合い、連携を図った。 ・子どもの怪我や病気については、適切かつ迅速に対応できた。

学校関係者評価委員 意見より	<ul style="list-style-type: none"> ・知徳体のバランスの取れた人格形成を推進し、その成果が十分見られ、概ね妥当な評価となっている。 ・あいさつは、6年生の「本気のあいさつ」プロジェクトの取組が功を奏し、大きくなってきている。年間を通して、PTAとも連携し、より強化していくことを期待したい。 ・道徳科の研修については、新学習指導要領に伴い、先生方が重点的に取り組んだ様子が伺える。今後はさらに児童の道徳性や心情を養うことに成果を期待したい。
-------------------	--

平成30年度 城山小学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：仲間との絆を体得し 心豊かに 知性を磨き たくましく生きる子ども

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的内容の習得 東員まなび検定 ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> 「話し方名人」「聞き方名人」を活用し「わからない」と言える教室をめざした。「分かりやすい説明の仕方」「聞く時の反応」を重視し、児童が主役となる対話的な授業を創造した。 全学年の算数で少人数授業を実施し、11月IRT学力調査の結果では、全校平均で8.3P 全国より高く、大きな効果をあげた。 東員まなび検定は1回目平均94点で、96%が合格した。 英語の教科化に向け、研修を行い、3・4年生はALTと外国語活動、5・6年生は英語を週2時間中学校教諭、ALTと推進した。
	授業改善・指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種テストの実施 テスト結果の分析等 職員研修の充実 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 各学力調査の結果分析を行い、D層の支援と授業改善に生かした。 全学級提案授業を年2回を行い、主体的対話的で深い学びにつながる授業のあり方を探求し、学力向上につなげた。 「みんなが主役の授業」とは具体的にどのようなことをめざしているのかということを各クラスで話し合い、互いの授業を見合うことで児童自身のめざす授業像を明確化した。
	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の手引き発行 家庭学習の指導 ノート指導 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」を作成・配付し、家庭と共に定着を図った。 家庭学習強化週間を各学期1回実施し、現状を見つめ直す機会にした。 取組6項目の達成率は約70%であり、昨年よりは20%高くなっているものの、家庭の意識の差が伺える。家庭学習の具体的方法等の家庭への啓発や個別の支援が必要である。家庭学習の習慣化は学力向上に不可欠なため、一層の取組を図る。
	読書の意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝の帯時間読書 読書登山の取組 読書活動等の取組 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 朝の10分間読書を毎日確保し、児童が本に触れる機会を増やした。 読書登山の取組を更に推進したい。 図書委員会の図書スタンプラリーや読み聞かせ等の活動や、図書館専門員（リブネット）の活用、貸し出し方法の簡略化により、図書室の利用児童が増加した。 児童アンケートでの「読書が好き」が86.5%になった。更に拡大していきたい。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画の策定 各教科、領域との関連 道徳の時間の充実 ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画・年間計画を基に全教育活動を通して指導し、道徳的心情を養った。 人権・命・平和の教育は他教科との関連学習を全学年で実施した。 道徳の教科化に伴い「考える・論議する道徳」を目指し、研修を行い推進した。 11/13～の人権週間には、人権の授業（道徳）及び学級見直しを行った。 11月の授業参観では、全クラスで道徳の授業公開を行った。
	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育推進計画策定 「いじめ防止基本方針」 特別支援教育の充実 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 人権週間で人権の授業参観を実施し、保護者への啓発を行った。 年4回のいじめ調査を実施し、実態把握と迅速な対応を行った。 「東員町子ども権利条例」を、各学年の発達段階に応じ学習した。 特別支援教育の研修を行い、児童理解と支援のあり方について学んだ。巡回相談、スクールカウンセラー、発達支援室、町民課等と連携を図った。
	コミュニケーション力の向上	<ul style="list-style-type: none"> SSTの実施 Q-U調査の実施 あいさつ運動の実施 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 週一回SSTの取り組みを行い、児童のコミュニケーションスキルや社会性の育成を図った。 年間3回のQ-U調査を実施し、実態把握と仲間づくりを進めた。（研修の充実） 児童会や有志が、中学生の協力も得て挨拶運動に取り組んだ。自分から進んで挨拶ができる児童を育てたい。
	児童生徒の自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童会、生徒会活動 縦割り班活動等 部活動等 ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> 全校活動や委員会活動を通して、高学年のリーダー性や自主性を育てた。上級生の姿が下級生の学びに繋がりが、児童から児童へと浸透している。 運動会の縦割り種目や応援、縦割り班遊び等を通して、異年齢集団の自主的活動に取り組み、高学年のリーダー性や企画運営力を培った。 児童会、委員会活動等により、児童主体の学校づくりを推進した。
体： 健やかな体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの実施・分析 各種体育的行事の実施 東員なわとび検定 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業では、運動量確保を実践し、全国体力テストでは男女共4種目全国平均を上回った。 運動会、マラソン、縄跳びの取組では、全校や縦割りでの練習を有効活用し、児童の身体と心の育成を図った。 東員縄跳び検定は、41人のボランティアの協力を得て実施できた。
	保健教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育 計画的な保健指導 保健だよりの発行 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の生活習慣の取り組みと、日常的な保健指導や児童委員会の働きかけにより、1日3回の歯みがきや、丁寧なブラッシングの定着ができた。 計画的かつタイムリーに保健便りを発行した。 4年生以上86.6%の児童は「健康のために食事、運動、睡眠、休養が大切であること」を理解し、意識した生活をするようになった。 給食指導、食育、弁当作り等を指導し、特に「みえ地物一番給食の日」には、6年生が全校にクイズを出しみんなで考えた、みえ地物について関心が高まった。
信： 信頼される学校	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート 学校自己評価の実施 学校評議員会の開催 ほか 	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と児童アンケートを実施・分析し、取り組みに活かした。 年度末活動総括と学校自己評価を実施し、PDCAを確立した。 学校評議員会を年2回開催し、様々な視点からの意見を頂いた。 地域との絆行事の内容を変更し、地域・保護者の方と触れ合う取り組みを推進した。
	安全・安心な学校	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全、防犯、防災教室の実施 けが、病気への適切な対応 ほか 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全ボランティア(64人)を組織し下校見守り活動を実施した。 P.T.A交通当番活動の実施により、安全な登校ができた。 避難訓練2回、引渡し訓練1回、防災教室(4～6年)各1回を実施した。 学校でのけがや病気について速やかに対応し、保護者への連絡等、適切に行った。首から上のけがは、原則病院で受診した。

学校関係者評価委員意見より

- 1 学校は色々な事に一生懸命に取り組めており、一定の成果が出ている。評価が厳し過ぎるのではないかな。
- 2 地域でも、「自分から」挨拶ができるように各家庭で取り組んで欲しい。
- 3 今後も引き続き、「基礎体力の向上」「分からないと言えない子の力をつけること」「評価も含め一層の小中の連携」「今日的課題への解決・支援」に取り組んでもらいたい。
- 4 地域としても、今後でもできることは協力していきたい。

平成30年度 **東員第一中学校** 学校自己評価書

学校経営理念：生徒が主役 地域と共に成長する学校

学校教育目標：自主・自立・自律 ～自らの未来を語れる生徒を育てる～

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習	3	・朝の帯時間の小テストに落ち着いて意欲的に取り組めた。 ・各教科でペアやグループの学習を取り入れ、「学び合い」の機会を増やした。 ・「授業がわかりやすい」という生徒90.3%、着実に成果が出ている。 ・生徒の「わからない」を本当に大切に授業の研究を進める。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・学調、IRTの結果を受け、学校体制で弱みと強みを分析し授業改善を進めた。 ・弱みを克服する手立てを具体化するために、教科部会の充実を図る。 ・授業アンケートより小集団での学び合いに価値を感じる生徒が増えている。また、活動時間の割合を「生徒：教師＝8：2」をめざし、生徒の思考時間を大切にできた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・自主学習やテキスト学習の取り組みの基準を示し取り組みの徹底が進んだ。 ・家庭学習に関するアンケート結果が昨年度より3ポイント上がった。家庭で机に向かう時間が増えた。また、定期テスト期間の家庭学習スタイルが自分なりにできつつあり、テストでの成果がみられた。 ・幼保小中の連携を大切にし、学びの連続性を大切にしていきたい。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・読書登山への新たな取り組みとして、学級文庫に読書登山の本を置くなどの工夫をした。今後は、家庭での読書習慣充実の方策も探る。 ・校内図書館の貸し出し冊数は向上が見られるが、まだまだ目標に達しない。図書館ボランティアの導入も視野に入れ、充実を図りたい。
徳： 豊かな人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・来年度の道徳教科化に向けて、授業時数の確保や教科書教材の研究を進めるとともに、全校道徳など共通課題の研究を進めた。 ・県教委より講師を招聘し、具体的な指導案づくりなどをとおして、教科道徳としての授業づくりに向けて研修を深めた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・人権教育指定校事業をきっかけに見直しを行った「人権教育カリキュラム」にもとづいて、人権の3側面についても意識して取り組めた。 ・沖縄修学旅行で、大学生とのディスカッションで、現代の問題についても考えを深めることができた。 ・いじめ基本方針の見直しにより、学校体制での取り組みを強化した。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・年3回QU調査を実施し、結果の分析研修を充実させ、学級経営や個々の生徒への具体的な支援につなげた。これにより、どの学級でも一学期よりQU調査の結果が改善された。 ・生徒会生活委員会のあいさつ運動が継続的に実施できたが、アンケートの結果は、わずかに下がっている。生徒の主体的な取り組みを進めるとともに地域家庭にも呼びかけていくことが大切であるとする。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	3	・どの行事も教師主体ではなく、子どもたちが主体・主役となって企画運営を行うことができた。 ・生徒会の委員会活動では、学校生活の課題を生徒自ら洗い出し取組を具体化できた。 ・室長会は、学年間の連携を図りながら、より主体的な動きをつくり出すことができた。
体： 健やかな体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・強制ではないが、部活動に90%以上の生徒が加入している。生徒の部活動の満足度は90.8%と高い。 ・スポーツテストを実施し、結果を生徒一人ひとりに渡して弱点を伝え指導している。 ・体育の時間、準備運動の後に種目にあった補強運動を行っている。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	3	・いなべ総合病院の川村先生を招いて命について考える講演会を開催した。 ・保健だよりの定期発行、保健室の整備を推進した。 ・健康面の保護者の満足度は97.7%と高い。さらに、感染症や食物アレルギーなどへの対応の職員研修を充実していく。
信： 信頼される学校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	4	・学校だよりを毎週発行すると共に、生徒の「プリント配り隊」を組織して学校関係者へ学校の様子を定期的に発信した。 ・学校評議員会を年3回、関係者評価委員会を年2回、また授業参観及び公開研究会にも関係者の方々に参観をしていただいた。 ・アンケートによると学校の意図やねらいが保護者の97.1%に理解されている。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	3	・サイバー犯罪の専門家である篠原先生の継続的な指導をいただき、全校生徒でつくった「一中ネットルール宣言」の見直しを行い、保護者や地域に発信することができた。 ・ケガや急病時における、複数かつ丁寧な対応の徹底がはかれた。 ・交通事故0を目指し、取り組んだ。命に関わる大きな事故はなかった。さらに地域や保護者と連携し学校体制での指導を徹底していく。
学校関係者評価委員意見より		<p>・いつ来ても、自転車が整然と並べられている。・トイレにも、きれいな花が飾られている。学校が落ち着いている証拠だ。・先生たちが自己評価を発表する姿に自信が溢れている。子どもたちの態度がのびのびしている。・東員町の子どもは、意欲があると他市町で言われている。</p> <p>・「学力の向上について、来年はどんな目標を立てるのか聞かせてほしい。」という質問について、「来年度は、特に教科別部会に力を入れ、各教科ごとの子どものつまづきをはっきりとし、つまづきにより沿って授業を行うことで学力を上げることができると考えている。」と回答した。</p>		

平成30年度 東員第二中学校 学校自己評価書

学校経営理念：知・徳・体、バランスのとれた人間育成と信頼される学校づくり

学校教育目標：知性豊かで、ひびきあい、喜び合い、ねばり強くやりぬく生徒を育てる

評価：4…目標を上回って達成した 3…目標どおりに達成した 2…目標を少し下回った 1…目標を大きく下回った

長期	短期経営目標	重点施策等	評価	経営目標の現状（到達状況・改善方策等）
知： 確かな 学力	基礎学力の定着	・基礎的内容の反復学習 ・帯時間学習 ・東員まなび検定 ほか	4	・各種調査において、概ね全国・県平均を上回ることができた。 ・朝学習や放課後学習、定期テスト前の二中タイム、土曜学習を活用し、基礎学力の定着・向上を図るための取り組みを継続して実施することができた。 ・少人数指導では、一部習熟度別指導を行うなど、学力層Dの割合を減らす取組を行うことができた。
	授業改善・指導力向上	・各種テストの実施 ・テスト結果の分析等 ・職員研修の充実 ほか	3	・IRTやみえスタディチェック、全国学調などの結果について、詳細に分析し強みや弱みを把握するとともに、授業改善、教材開発、定期テストの工夫などに努めた。 ・全教員が授業を公開し研修をおこなうとともに、今年度は主体的に課題に向き合うために「私らしさが溢れる授業づくり」を継続した授業づくりに努めることができた。
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き発行 ・家庭学習の指導 ・ノート指導 ほか	3	・基礎学力の定着・向上のために、課題（宿題やテキスト）を出し、丁寧に点検をおこなうなど、家庭学習の定着に努めた。 ・家庭学習ができない生徒や課題提出が出来ない生徒については、個別指導をねばり強く行った。 ・家庭学習の量等については、個に応じた配慮を行った。
	読書の意欲向上	・朝の帯時間読書 ・読書登山の取組 ・読書活動等の取組 ほか	2	・朝読書については、日常的に実施することができたが、家庭での読書習慣に結びつけることはできなかった。読書時間が長い生徒の方が、定期テストの点数が高い傾向にあることから推進を図りたい。 ・生徒会図書委員会を中心に貸し出しなど、読書週間が身に付くよう工夫したが、時間的な関係から難しかった。
徳： 豊かな 人間性	道徳教育の充実	・年間計画の策定 ・各教科、領域との関連 ・道徳の時間の充実 ほか	3	・次年度の教科化を見据えた研修を重ね、教材研究の準備を行い、実施に備えた。 ・視聴覚教材を含めて教材（資料）開発に努め、生徒の実態に対応して教材選択が行うなど、ICT化による教材の蓄積を図った。 ・年間計画に基づきつつ、学校行事や学級の実態に応じて、道徳の指導内容を工夫しながら取り組むことができた。
	人権教育の推進	・人権教育推進計画策定 ・「いじめ防止基本方針」 ・特別支援教育の充実 ほか	3	・年間計画に沿って、人権学習に取り組むことができた。 ・日常の学校生活や教育活動・行事を通じて、「人権」を尊重した生き方が出来るよう努めた。 ・いじめをはじめとする人権を侵害する事案が少なからずあった。情報収集及び交流を欠かさず、ねばり強く解決に向けて取り組んだ。
	コミュニケーション力の向上	・SSTの実施 ・Q-U調査の実施 ・あいさつ運動の実施 ほか	3	・PTAの活動と連動して、生徒会であいさつ運動「おはようTuesday」を計画的に実施することができた。日常生活のなかでもよくあいさつができていく。 ・定期的に実施するQ・Uについて、その結果を分析し学級づくりに活用することができた。また、学校全体での情報交流・研修を行うことができた。
	児童生徒の自治的活動の充実	・児童会、生徒会活動 ・縦割り班活動等 ・部活動等 ほか	4	・体育祭、合唱祭など生徒会が主体となって取組、集団としての成長が見られた。特に本年度は、上級生がリーダーシップを回り、縦割りの活動を多く取り入れる事で集団としての力が高まった。 ・日常の委員会活動においては、給食や掃除、授業への取り組みを積極的に実施し、充実したものにする事ができた。 ・限られた時間の中での部活動であるが、充実した活動ができた。
体： 健やか な体	体力の向上	・体力テストの実施・分析 ・各種体育的行事の実施 ・東員なわとび検定 ほか	3	・体力テストの結果から、課題も明確になり、基礎的な体力向上を今後も継続的に行っていく必要がある。また、今年も、全校縦割りで上級生が手本を見せながら意欲的に行うことができた。 ・体育の授業やマラソン大会、部活動を通じて体力の向上に努めた。
	保健教育の推進	・健康教育 ・計画的な保健指導 ・保健だよりの発行 ほか	4	・年間通じて、生徒の心身の発達や健康について留意した活動を行うことができた。アレルギー対応も丁寧に行うことができた。 ・食育年間計画を職場全体で見直すことができ、今年度は文科省「つながる食育推進事業」に二中校区として取り組み、食全般に関する意識の向上を図ることができた。 ・季節や時期に応じて「保健だより」を発行し、健康保持のための啓発をおこなうことができた。
信： 信頼さ れる学 校	開かれた学校	・学校評価アンケート ・学校自己評価の実施 ・学校評議員会の開催 ほか	3	・年間の計画通り、各種調査を実施した。 ・学校自己評価を行うことで、継続的な改善活動をおこなうことができた。 ・学校評議員会を予定通り開催し、広く意見を聞くことができた。
	安全・安心な学校	・交通安全、防犯、防災教室の実施 ・けが、病気へのていねいな対応 ほか	4	・計画的に、交通安全教室や防犯・防災教室、訓練を実施することができた。 ・スマホに潜む危険性を、講師を招聘し2回実施した。今後も繰り返し指導していく必要を切に感じている。また、今年も、生徒会を中心にSNS使用について各行事時に、保護者にも呼びかけを行った。 ・怪我等に対しては、適切な対応ができた。

学校関係者評価委員
意見より

○家族団樂を大切に、小さい頃から話しかけに対して、親がきちんと反応してあげる。習慣から会話が生まれるので、一緒にどんなことでも取り組むことが必要である。文化的な事にも一緒に足を運ぶ、積極的に関わりを持つことが大切である。スマホなどの機器を使用し始めて、受け身の会話が多くなっている。子どもを言葉を引き出し、考える能力を付けさせてほしい。○世間や地域では土日は休みであるにも関わらず、学校現場では部活をして働いているのが教師である。先生方には、朝元気に出勤するためには、リフレッシュすることが大切である。そのためには、一日でもしっかりと早く帰る日を設けること、休日交替で出勤するような体制を取り、順番に休んで頂くようにして欲しい。先生方にも家庭があるはずで、気持ちを切り替える意味でも、自分の生活も大切にしたい。○体育祭の先生方の姿から、元氣や笑顔、生き生きとされていて素敵であり、自ら積極的に動く姿は、尊敬する職業である。○挨拶は大人よりもよくしてくれる。卒業して高校生になっても構えている。子ども達が地域を作る源になっていると思う。大人がもっと積極的に関わりを持つとすることが大切であり、子ども達は大人の姿から学んでいるので気をつけたい。

資料編

目 次

	ページ
1 教育委員会の審議内容（議案）	1
2 教育委員会の審議内容（報告）	2
3 教育委員会の審議内容（後援）	3
4 平成30年度 児童・生徒・園児数、学級数	4
5 児童、生徒数の推移	5
6 平成30年度 教職員数	5
7 学校教育施設の状況	6
8 学校教育施設一覧	6
9 社会教育施設一覧	7
10 指定文化財一覧	7
11 社会教育施設の利用状況	8
12 図書館の利用状況	9

1 教育委員会の審議内容（議案）

番号	件名	提出年月日
1	東員町教育関係事業補助金等交付要綱について	平成30年4月23日
2	平成30年度東員町教育予算(一般会計補正予算第1号)について	平成30年5月30日
3	東員町奨学金の給付について	平成30年6月29日
4	東員町就学援助実施要綱の一部改正について	平成30年6月29日
5	平成29年度東員町教育委員会事務事業点検・評価報告書について	平成30年7月31日
6	平成31年度使用 中学校教科図書「特別の教科 道徳」及び、平成31年度使用小学校教科用図書の採択について	平成30年7月31日
7	教育委員会の委員の任命について	平成30年8月29日
8	学校施設整備基本構想について	平成30年10月31日
9	東員町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	平成31年1月22日
10	東員町学校給食調理業務等委託業者選定委員会設置要綱の一部を改正する要綱について	
11	東員町教育施設防犯カメラの設置及び運用に関する規程について	
12	平成31年度 東員町教育基本方針(案)について	平成31年2月14日
13	平成30年度 東員町教育予算(一般会計補正予算第4号)について	
14	平成31年度 東員町教育予算(一般会計当初予算)について	
15	東員町立保育所設置条例の一部改正(定員変更)について	
16	平成30年度末教職員人事異動について	平成31年2月28日
17	東員町教育施設防犯カメラの設置及び運用に関する規程の一部改正について	
18	東員町教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	平成31年3月27日

2 教育委員会の審議内容（報告）

番号	件名	提出年月日
1	平成29年度中学校卒業生進路状況報告について	平成30年4月23日
2	平成30年度教育委員会事業概要について	
3	東員町子ども・子育て支援法施行細則の一部を改正する規則について	平成30年5月30日
4	平成30年6月定例議会の報告について	平成30年6月22日
5	みえスタディチェック及び、全国学調自校採点の結果報告について	
6	16年一貫教育プランのアンケートについて	
7	教育委員会の取り組みについて	
8	教職員の働き方改革について	平成30年8月29日
9	16年一貫教育プランの現状について	
10	英語教育の推進について	
11	図書館休館及び貸出期間の延長について	
12	平成30年9月定例議会の報告について	平成30年9月27日
13	小学校外国語教育について（笹尾東小学校）	
14	平成30年度 全国学力・学習状況調査 町独自分析について	平成30年10月31日
15	第51回東員町文化祭について	
16	平成29年度 問題行動等調査結果の報告について	平成30年11月26日
17	学校給食センター調理業務等委託契約について	
18	平成30年12月定例議会の報告について	平成30年12月20日
19	年末年始の図書の貸付期間延長について	
20	平成31年度小中学校教職員人事異動基本方針について	
21	保育施設の利用定員の変更及び平成31年度保育園・幼稚園の園児数について	平成31年1月22日
22	平成30年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果について	
23	平成31年3月定例議会の報告について	平成31年3月27日
24	平成30年度総合学力調査（3学期版）の結果について	
25	教職員の働き方改革について	

3 教育委員会の審議内容（後援）

番号	件名	提出年月日
1	「第63回三重県高等学校演劇大会北勢地区大会」の後援について	平成30年4月23日
2	「フラワーコーラス演奏会」の後援について	
3	「第37回 とういん寄席」の後援について	平成30年5月30日
4	「岡田水彩画グループ合同展」の後援について	
5	「第10回記念 ほのぼのコンサート」の後援について	
6	「夏のエコフェア2018」の後援について	
7	「鈴木鎮一誕生120周年記念 教育講演会とヴァイオリン・チェロのコンサート」の後援について	
8	「夏休み親子電気実験教室」の後援について	
9	「馬ふれあい&乗馬教室」の後援について	
10	「文化協会設立30周年記念行事 白子高校吹奏楽部講演会」の後援について	
11	「いなべファミリー税金クイズ大会」の後援について	平成30年6月29日
12	「北勢線夏休み親子ツアーズ」の後援について	
13	「第28回 子供税金クイズ大会」の後援について	
14	「第3回 公募学生書道展」の後援について	
15	「ものづくりフェア2018」の後援について	
16	「第6回 コスモスサロンコンサート」の後援について	平成30年7月31日
17	「家庭教育講演会」の後援について	
18	「ライツ2018共に生きる明日をつくるつどい」の後援について	平成30年9月27日
19	「四日市友の会 家事家計講習会」の後援について	
20	「モラロジー生涯学習セミナー」の後援について	
21	「第13回子育て応援 わくわくフェスタ」の後援について	
22	「モンスターライトをつくろう」の後援について	
23	「ハロウィーン バルーンワークショップ」の後援について	
24	「Sound Forest Concert」の後援について	
25	「女声合唱団 くわな市民コーラス 第25回演奏会 創立41年 新たな一歩」の後援について	
26	「三重県立いなべ総合学園高等学校吹奏楽部第13回定期演奏会」の後援について	
27	「第45回 みえけん人形劇フェスティバル いなべ会場」の後援について	平成30年12月20日
28	「障がい児（者）の就労について～講演会～」の後援について	
29	「第10回 弦楽チャリティーコンサート」の後援について	平成31年1月22日
30	「Dance studio a☆mieux 7th Exhibition」の後援について	
31	「第26回春の文協まつり」の後援について	平成31年2月14日
32	「洋裁サークル・マミー 10周年記念作品展」の後援について	
33	「第56回 道徳教育研究会」の後援について	平成31年3月27日
34	「第38回 フラワーコーラス演奏会」の後援について	
35	「第38回 とういん寄席」の後援について	
36	「特別支援教育 講演会」の後援について	

4 平成30年度 児童・生徒・園児数、学級数

()は特別支援学級：外数 ※学級数は実学級数 平成30年5月1日現在

小学校	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
三和	(0) 25	1	(2) 26	1	(0) 26	1	(0) 33	1	(2) 28	1	(0) 32	1	(4) 170	(2) 6
稲部	(3) 30	1	(1) 42	2	(1) 30	1	(0) 29	1	(3) 41	2	(1) 37	1	(9) 209	(2) 8
神田	(4) 76	3	(3) 75	3	(4) 73	2	(4) 87	3	(5) 79	2	(2) 65	2	(22) 455	(4) 15
笹尾西	(1) 29	1	(1) 37	2	(0) 23	1	(1) 43	2	(1) 17	1	(1) 29	1	(5) 178	(1) 8
笹尾東	(2) 37	2	(2) 29	1	(2) 32	1	(0) 41	2	(1) 31	1	(0) 31	1	(7) 201	(2) 8
城山	(3) 22	1	(1) 28	1	(1) 30	1	(2) 27	1	(1) 23	1	(2) 26	1	(10) 156	(2) 6
合計	(13) 219	9	(10) 237	10	(8) 214	7	(7) 260	10	(13) 219	8	(6) 220	7	(57) 1369	(13) 51

中学校	1年		2年		3年		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
東員第一	(4) 132	4	(3) 125	4	(5) 129	4	(12) 386	(2) 12
東員第二	(2) 94	3	(3) 88	3	(0) 100	3	(5) 282	(2) 9
合計	(6) 226	7	(6) 213	7	(5) 229	7	(17) 668	(4) 21

幼稚園	3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
三和	10	1	15	1	13	1	38	3
稲部	16	1	22	1	25	1	63	3
神田	43	2	42	2	39	2	124	6
笹尾西	19	1	17	1	7	1	43	3
笹尾東	18	1	13	1	23	1	54	3
城山	14	1	12	1	10	1	36	3
合計	120	7	121	7	117	7	358	21

保育園	0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数
みなみ	1	1	11	3	12	2	9	1	12	1	11	1	56	9
いなべ	2	1	11	3	18	3	15	1	16	1	16	1	78	10
東員	3	1	11	3	17	3	40	3	31	3	43	3	145	16
笹尾第一	1	1	11	3	16	3	10	1	14	1	15	1	67	10
笹尾第二	1	1	12	3	16	3	19	1	16	1	20	1	84	10
城山	3	1	16	4	10	2	17	1	13	1	18	1	77	10
合計	11	6	72	19	89	16	110	8	102	8	123	8	507	65

5 児童、生徒数の推移

平成30年5月1日現在

小学校	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6
三和	197	205	205	199	186	195	184	182	173	174	167	164	151	142	132	122
稲部	175	198	216	218	220	236	226	214	209	218	224	217	225	243	236	239
神田	410	397	380	412	397	412	454	463	441	477	501	499	497	507	517	511
笹尾西	186	179	182	203	189	173	179	176	169	183	178	194	182	196	179	180
笹尾東	259	264	258	261	235	223	218	206	202	208	226	226	221	217	212	192
城山	212	206	199	189	176	173	172	175	170	166	165	165	168	157	158	164
合計	1,439	1,449	1,440	1,482	1,403	1,412	1,433	1,416	1,364	1,426	1,461	1,465	1,444	1,462	1,434	1,408

H31/R1以降は推計

中学校	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2	R3	R4	R5	R6
東員第一	367	362	380	409	408	397	380	382	370	398	399	428	444	447	440	426
東員第二	296	293	298	326	318	332	328	317	315	287	275	260	278	284	306	288
合計	663	655	678	735	726	729	708	699	685	685	674	688	722	731	746	714

H31/R1以降は推計

6 平成30年度 教職員数

小学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等職員	用務員	計	
三和	1	1	9.5	2	1	1	1	1	17.5	3	2	1	6	23.5
稲部	1	1	12	1	1	0	0	1	17	1	3	1	5	22
神田	1	1	23.5	7	1	0	0	1	34.5	1	8	1	10	44.5
笹尾西	1	1	10	2	1	0	0	1	16	2	4	1	7	23
笹尾東	1	1	11	1	1	0	0	1	16	2	3	1	6	22
城山	1	1	10	2	1	0	0	1	16	3	2	1	6	22
合計	6	6	76	15	6	1	1	6	117	12	22	6	40	157

中学校	県費教職員									町費教職員				合計
	校長	教頭	教諭	講師	養護教諭	栄養教諭	学校栄養職員	事務職員	計	非常勤講師	支援等職員	用務員	計	
東員第一	1	1	21	5	1	0	0	1	30	5	3	1	9	39
東員第二	1	1	18	4	1	1	0	1	27	4	3	1	8	35
合計	2	2	39	9	2	1	0	2	57	9	6	2	17	74

※1 数値は、学級数及び教職員定数（国・県費・町費）、講師等配置確認表から取得

※2 再任用は教諭数に含む。

※3 講師は非常勤職員の合計数（初任研・町単教員非常勤は除く。）

※4 用務員には委託職員も含む。

※5 非常勤講師のうち9名は県費非常勤と兼務。

※6 用務員にはシルバー人材センターも含む。

幼稚園	園長	副園長	教諭		計
			正規	臨時	
三和	1	(1)	4	0	5
稲部	1	(1)	3	0	4
神田	1	1(1)	4	2	8
笹尾西	1	1	3	0	5
笹尾東	1	1	4	0	6
城山	1	1	3	0	5
合計	6	4(3)	21	2	33

保育園	園長	副園長	保育士		調理員	計
			正規	臨時		
みなみ	(1)	1	0	6	1	8
いなべ	(1)	1	5	7	1	14
東員	(1)	1(1)	8	5	2	16
笹尾第一	(1)	(1)	4	4	1	9
笹尾第二	(1)	(1)	4	6	1	11
しろやま	(1)	(1)	6	3	1	10
合計	(6)	3(4)	27	31	7	68

7 学校教育施設の状況

小学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
三和	6	2	13	8	3,030	S50	801	S54	20,011
稲部	8	2	9	9	2,917	S45	802	S56	17,471
神田	15	4	15	8	3,231	S48	790	S51	16,717
笹尾西	8	1	15	10	3,918	S53	725	S53	20,483
笹尾東	8	2	18	10	4,470	S57	1,095	S58	18,498
城山	6	2	15	8	5,473	S63	983	S63	22,128

中学校	学級数		保有教室数		校舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	普通	特支	普通	特別	面積(㎡)	建築年	面積(㎡)	建築年	
東員第一	12	2	16	16	6,135	S41	1,536	S54	32,919
東員第二	9	2	27	17	7,514	S58	1,394	S58	28,887

幼稚園 保育園	学級数	教室数	園舎		校地面積 (㎡)
			面積(㎡)	建築年	
三和	3	3	1,573	H14	8,684
みなみ	9	6			
稲部	3	4	1,100	H17	4,536
いなべ	10	5			
神田	6	6	2,068	H11	7,886
東員	16	5			
笹尾西	3	3	1,076	S56	8,156
笹尾第一	10	5			
笹尾東	3	4	1,178	H20	4,016
笹尾第二	10	6			
城山	3	3	962	H2	6,842
しろやま	10	5			

8 学校教育施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	備考
三和幼稚園	511-0255	東員町大字長深690番地	0594-76-5319	
みなみ保育園		東員町大字長深661番地	0594-76-2193	
稲部幼稚園	511-0244	東員町大字大木1075番地	0594-76-5318	
いなべ保育園				
神田幼稚園	511-0242	東員町大字六把野新田111番地	0594-76-5317	
東員保育園				
笹尾西幼稚園	511-0231	東員町笹尾西2丁目31番1	0594-76-6681	
笹尾第一保育園				
笹尾東幼稚園	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-3150	
笹尾第二保育園				
城山幼稚園	511-0233	東員町城山1丁目44番	0594-76-4433	
しろやま保育園				
三和小学校	511-0255	東員町大字長深700番地	0594-76-2292	
稲部小学校	511-0244	東員町大字大木944番地	0594-76-2004	
神田小学校	511-0242	東員町大字六把野新田100番地	0594-76-2305	
笹尾西小学校	511-0231	東員町笹尾西2丁目1番1	0594-76-2847	
笹尾東小学校	511-0232	東員町笹尾東4丁目28番	0594-76-6521	
城山小学校	511-0233	東員町城山1丁目48番	0594-76-9046	
東員第一中学校	511-0242	東員町大字六把野新田557番地	0594-76-2303	
東員第二中学校	511-0233	東員町城山2丁目1番	0594-76-5152	
東員町学校給食センター	511-0241	東員町大字鳥取1652番地1	0594-86-2200	
東員町子育て支援センター	511-0255	東員町大字長深661番地	0594-76-1266	H30年度より子ども家庭課所管
とういんファミリーサポートセンター	511-0255	東員町大字長深661番地	0594-76-2123	H30年度より子ども家庭課所管

9 社会教育施設一覧

施設名	住所	電話番号	施設概要
東員町総合文化センター	511-0251 東員町大字山田1700番地	0594-86-2816	ホール 702席、図書館 105,801冊、駐車場 265台
笹尾コミュニティセンター	511-0232 東員町笹尾東2丁目5番3	0594-76-8233	多目的ホール、研修室（和室）、2階会議室（1・2・3）、調理室、2階研修室、笹尾連絡所2階会議室
東員町郷土資料館	511-0233 東員町城山1丁目48番	—	展示数 98点
東員町武道館	511-0251 東員町大字山田1600番地	—	柔道場、剣道場
東員町中央球場	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	両翼 91m、センター 120m、照明 6基96灯
城山球場	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	両翼 80m、センター 100m
東員町中央テニスコート	511-0257 東員町大字北大社450番地	—	3面（セミアンツーカー）
城山テニスコート	511-0232 東員町城山1丁目47番1	—	6面（ハードコート2面、オムニコート4面）
東員町総合体育館	511-0251 東員町大字山田1600番地	0594-86-2819	アリーナ、卓球室、トレーニングルーム、観客室582席 会議室、更衣室、ミキサー室
東員町民プール	511-0257 東員町大字北大社428番地6	0594-76-7463	50mプール、流水プール、幼児用プール
東員町スポーツ公園 陸上競技場	511-0257 東員町大字北大社323番地	0594-76-0481	全天候ウレタン舗装400mトラック、インフィールド（高麗芝）74m ×105m、固定席1,954席、サブスタンド（芝）4,000人
城山多目的グラウンド	511-0233 東員町城山3丁目4番1	—	サッカーコート58m×90m、照明3基9灯
長深グラウンド	511-0255 東員町大字長深3583番地	—	多目的グラウンド 11,759㎡

10 指定文化財一覧

指定	種別	番号	名称	所在地	指定年月日	概要
県指定	有形 美術 工芸品	1	絹本着色景川和尚像	東員町大字長深2525番地	昭和27年3月13日	明応9年（1500年）仲春に描かれ伝統的な頂相作家の筆と思われる。縦105cm、横54cm。景川和尚（1425～1500）は臨済宗の高僧である。
		2	木造薬師如来坐像	東員町大字穴太731番地	昭和32年10月10日	貞観年間（870年頃）の名工作。蓮華座上に結伽跏座した高さ約90cmの一木造りの仏像。左手に薬つぼを持ち右手は施無畏の印を結ぶ。
	無形 無形 民俗	1	猪名部神社上げ馬神事	東員町大字北大社797番地	平成14年 3月18日	毎年4月の第1土・日曜日に開催される。鎌倉時代、員弁郡司・員弁三郎行綱が若者の士気を鼓舞するために行ったのが始まり。
町指定	記念物 天然 記念物	1	トウインヤエヤマザクラ	東員町城山1丁目18番16	平成 8年 4月17日	八重咲きのヤマザクラで奈良の八重桜に似ている。葉や花柄に毛がなく、めしべが2本あるものもある非常に希少な種。
		2	山田半ノ木谷イヌナシ	東員町笹尾東1丁目28番5	平成10年 4月 3日	野生ナシの中で最も原始的な種。4月に白い花が咲き、6月には直径1cmの果実を結ぶ希少種。
		3	トウインヤエヤマザクラ（第2号）自生地	東員町城山1丁目47番7	平成10年 4月 3日	第1号と同種のヤマザクラ。第1号より花の色が薄く、開花時期も例年1～2週間ぐらい早い。
		4	観音もみじ	東員町大字瀬古泉993番地	平成24年 3月29日	生育地の古事を有する古木で、主幹が株元から3.9mは横伏しその後は7本立ちとなっている。樹齢約300年とされる。
無形 無形 民俗	1	六把野獅子舞	東員町大字六把野新田699番地	平成11年10月 10日	五穀豊穡、悪魔祓いの祈禱神事として、六把野御厨神明社に奉納される。	

11 社会教育施設の利用状況

(1) 総合文化センター

(単位：人)

年度	ひばりホール		図書館					展示室
	回数	入館者	入館者	利用者	貸出冊数	利用団体数	団体貸出冊数	
30	169	18,241	95,995	37,500	180,269	28	981	2,603
29	212	20,728	96,445	37,360	180,335	26	1,251	3,503

年度	楽屋		リハーサル室		第1研修室		第2研修室(和室)	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
30	353	2,609	531	5,859	170	2,253	200	3,041
29	390	2,810	514	5,546	178	2,247	212	3,319

年度	第1講習室		第2講習室		第3講習室		美術工芸室	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
30	269	5,875	259	4,069	113	1,579	162	3,028
29	267	4,972	276	4,163	124	1,275	204	3,003

年度	調理実習室		陶芸室		展示コーナー	
	回数	利用者	回数	利用者	回数	利用者
30	153	3,091	138	1,189	113	3,489
29	142	2,806	135	1,218	80	2,881

(2) 笹尾コミュニティーセンター、郷土資料館 (単位：人)

年度	1階多目的ホール		1階研修室(和室)		2階会議室1・2・3	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
30	731	12,271	34	246	698	6,936
29	674	11,803	31	372	590	6,437

年度	2階調理室		2階研修室		笹尾連絡所2階会議室	
	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数	利用者数
30	8	116	1	4	136	1,581
29	16	202	14	46	144	1,414

年度	郷土資料館 見学者数
30	13
29	118

(3) 社会体育施設

(単位：人)

年度	総合体育館			武道館	中央テニ	中央球場	城山テニ	城山球場
	アリーナ	トレーニング室	卓球室					
30	29,458	26,447	5,747	16,567	1,757	3,265	14,907	3,284
29	29,984	27,615	6,587	18,845	1,715	4,294	16,012	3,743

年度	城山多目的 グラウンド	笹尾西小ナイター	長深グラウンド	陸上競技場			町民プー
				グラウンド	トレーニング室	多目的 グラウンド	
30	5,581	650	2,593	32,910	95	7,255	28,420
29	7,553	400	2,642	26,160	49	7,042	27,293

年度	学校施設(体育館)							
	神田小	稲部小	三和小	笹尾西小	笹尾東小	城山小	一中	二中
30	6,897	7,181	7,221	8,704	9,090	7,522	8,021	11,503
29	5,955	7,959	4,958	6,004	7,110	11,257	7,738	11,459

1 2 図書館の利用状況

(1) 図書館資料 (単位：冊・点)

区分	H30年度			H29年度		
	一般書	児童書	計	一般書	児童書	計
郷土資料	1,060	—	1,060	1,040	—	1,040
総記	4,034	404	4,438	3,962	399	4,361
哲学・宗教	2,542	278	2,820	2,506	277	2,783
歴史・地理	6,153	948	7,101	6,110	932	7,042
社会	9,363	995	10,358	9,366	972	10,338
自然	4,945	2,062	7,007	4,917	2,070	6,987
工業	6,281	820	7,101	6,384	801	7,185
産業	2,612	538	3,150	2,689	524	3,213
芸術	7,959	1,317	9,276	7,795	1,306	9,101
言語	1,181	312	1,493	1,187	309	1,496
文学	29,353	11,135	40,488	28,891	11,138	40,029
絵本	—	10,788	10,788	—	10,677	10,677
紙芝居	—	721	721	—	719	719
計	75,483	30,318	105,801	74,847	30,124	104,971

雑誌	4,443	4,443	4,504	4,504
ビデオ、DVD	717	717	698	698
カセットテープ	55	55	55	55
CD	41	41	41	41
計	5,256	5,256	5,298	5,298

(2) 図書館利用等各種指数

区 分	H30年度		H29年度	
登録者数 (人)	町内①	22,199	町内①	21,780
	町外	12,590	町外	12,416
	計 ②	34,789	計 ②	34,196
貸出冊数 (冊)	個人③	180,269	個人③	180,335
	団体	981	団体	1,251
	計 ④	181,250	計 ④	181,586
町人口 (3月末) ⑤		25,805		25,602
貸出利用者数 ⑥		37,500		37,360
貸出利用団体数 ⑦		28		26
蔵書冊数 ⑧		105,801		104,971
登録率 (町内在住者) ①/⑤ (%)		86		85.1
登録者1人あたり貸出冊数 ③/②		5.2		5.3
登録者1人あたり貸出回数 ⑥/②		1.1		1.1
1回当たり貸出冊数 ③/⑥		4.8		4.8
蔵書回転率 ④/⑧ (回)		1.7		1.7
予 約 件 数	窓 口	3,116		3,336
	インターネット	1,634		1,783
レファレンスサービス (文献調査含む)		4,219		3,766
蔵書平均単価 (円)		2,001		1,994

(3) 年齢別登録者数 (単位: 人)

区分	H30年度			H29年度		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	131	126	257	136	123	259
7～9歳	278	279	557	265	302	567
10～12歳	337	417	754	337	400	737
13～15歳	386	433	819	402	458	860
児童計	1,132	1,255	2,387	1,140	1,283	2,423
16～18歳	462	505	967	502	501	1,003
19～22歳	685	709	1,394	669	726	1,395
23～29歳	1,427	1,706	3,133	1,503	1,801	3,304
30～39歳	3,069	4,093	7,162	3,074	4,166	7,240
40～49歳	2,010	4,157	6,167	1,825	3,953	5,778
50～59歳	1,274	3,179	4,453	1,299	3,173	4,472
60～69歳	1,873	2,997	4,870	1,916	2,948	4,864
70歳以上	2,090	2,166	4,256	1,859	1,858	3,717
一般計	12,890	19,512	32,402	12,647	19,126	31,773
合計	14,022	20,767	34,789	13,787	20,409	34,196
構成比 (%)	40.3	59.7	100	40.3	59.7	100

(4) 年齢別個人利用状況 (単位: 冊)

区分	H30年度			H29年度		
	男	女	計	男	女	計
0～6歳	7,155	6,555	13,710	8,085	6,210	14,295
7～9歳	7,187	9,621	16,808	7,376	11,503	18,879
10～12歳	3,985	7,654	11,639	2,920	6,925	9,845
13～15歳	837	1,357	2,194	1,467	1,261	2,728
児童計	19,164	25,187	44,351	19,848	25,899	45,747
16～18歳	832	661	1,493	752	520	1,272
19～22歳	714	564	1,278	330	600	930
23～29歳	378	2,743	3,121	450	2,881	3,331
30～39歳	4,120	24,385	28,505	4,375	24,699	29,074
40～49歳	5,580	23,017	28,597	5,929	23,649	29,578
50～59歳	3,954	10,995	14,949	4,035	9,874	13,909
60～69歳	12,138	20,144	32,282	14,734	19,361	34,095
70歳以上	17,590	8,064	25,654	16,066	6,333	22,399
一般計	45,306	90,573	135,879	46,671	87,917	134,588
合計	64,470	115,760	180,230	66,519	113,816	180,335
構成比 (%)	35.8	64.2	100	36.9	63.1	100

(5) 相互貸借 (単位: 冊)

区分		H30年度	H29年度
貸出	県内図書館へ	603	591
	県外図書館へ	8	2
	計	611	593
借受	県内図書館から	174	192
	県外図書館から	4	2
	計	178	194

(6) 除籍状況 (単位: 冊)

区分	H30年度	H29年度
リサイクル会等	4,077	4,167
不明図書・雑誌	0	0
紛失・損傷図書	15	11
ビデオ、DVD	6	4
計	4,098	4,182

(7) 図書館行事

行事名	開催日	参加人数 (人)
読み聞かせ会	毎月第2土・第4土	子ども358人、大人291人
不用図書リサイクル会	6月30日、7月1日	465人 (2,450冊)
児童向け人形劇	11月3日	子ども64人、大人59人